

令和4年度

森林・林業・木材産業グリーン成長総合対策補助金等

**（建築用木材供給強化促進事業のうち
森林認証材の需要拡大事業）事業報告書**

令和5年4月



大館北秋田地域
林業成長産業化協議会

目次

第1 実施団体・事業背景について

- 1 実施団体について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 事業の背景・目的について・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第2 事業内容と結果

- 1 事業計画概要について・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2 事業内容と結果について・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第3 事業実施により得られた効果

- 1 期待される効果及び事業実施により得られた効果・・・・・・・・ 18

第4 今後の課題と次年度以降の計画

- 1 今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 2 次年度以降の計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

- 参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

第1 実施団体・事業背景について

1 実施団体について

(1) 大館北秋田地域林業成長産業化協議会について

大館北秋田地域林業成長産業化協議会（以下、「協議会」）は秋田県大館市を範囲（図-1）として、大館北秋田地域の林業・木材産業の成長産業化の実現に向けた活動を行っている協議会である。

平成29年度～令和3年度に林野庁補助事業「林業成長産業化地域創出モデル事業」に取り組み、産学官連携による森林資源の循環利用やサプライチェーン構築に関する事業を実施。川上から川下までの参画者との連携により素材生産量、再造林面積、苗木生産量等を増加（図-2、図-3）させることができたほか、“忠犬ハチ公”を通じて防災協定を締結している「渋谷区」と連携し、大館市産秋田スギを同区の公共施設「渋谷区子育てネウボラ（図-4）」へ供給し、都市部の木質化に向けた“地産外商”に取り組んだ。



図-1 位置図



図-2 大館市有林 素材生産量の推移 (H25～R3)

■再造林面積(ha)・苗木出荷本数(千本)UP						
指標	H28	H29	H30	R1	R2	R3
再造林面積	31	81	127	127	117	93
苗木出荷本数	500	850	892	924	1,032	1,264

■木質バイオマス出荷量UP (m³)						
指標	H28	H29	H30	R1	R2	R3
木質バイオマス出荷量	40,650	43,900	45,330	54,097	75,209	74,446

図-3 大館北秋田地域構想 達成目標進捗管理表より作成

第1 実施団体・事業背景について

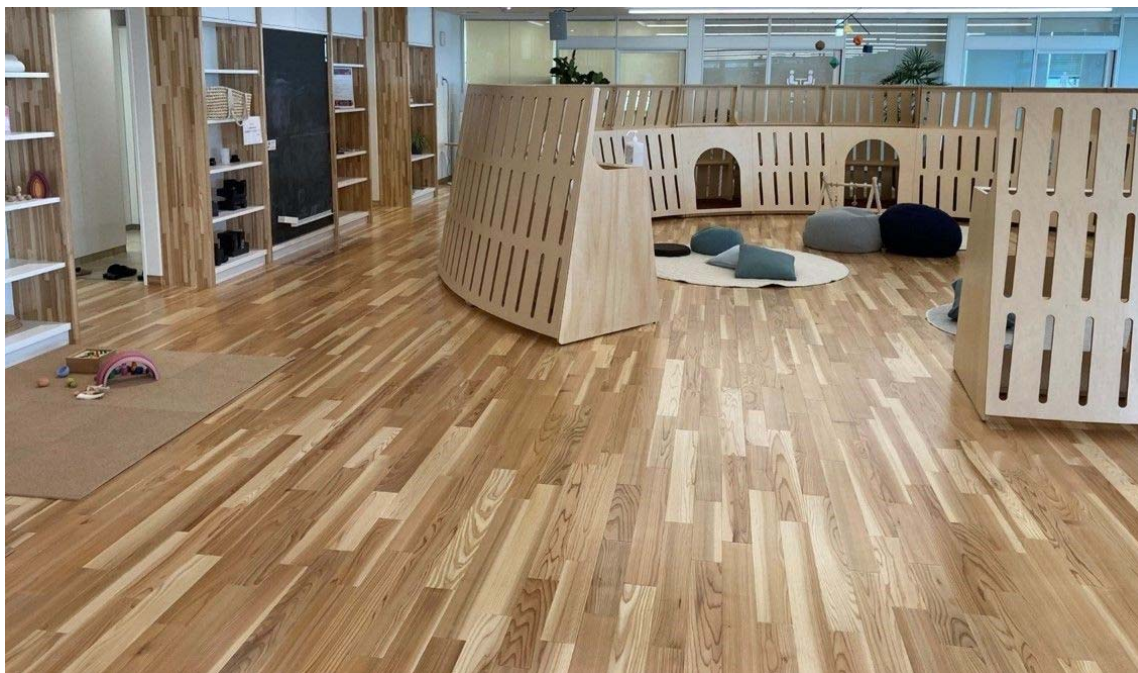


図-4 渋谷区子育てネウボラ3F（秋田スギフローリング）

令和4年度より、「林業成長産業化地域創出モデル事業」の事業成果を活かした地域の更なる発展、他地域への横展開を図るため、協議会の会員として新たに大館市内の「住宅事業者」や「建築設計事業者」などが加入したほか、特別会員として「鹿角市」および「小坂町」が加入するなど、会員数が令和3年度末の35会員から76会員（令和4年5月末現在）に増加している。

（2）協議会の新たな構想 『グリーン成長構想』（図-5）

協議会の目的である、本地域の充実した森林資源の最大活用と資源循環の確立による“森林資源の「循環の輪」の創造”を基本理念とし、令和3年6月に閣議決定された「森林・林業基本計画」に掲げる「森林・林業・木材産業によるグリーン成長」を目指すため、令和5年2月に「グリーン成長構想」を策定している。

●構想に掲げる5つの柱

- 1 森林資源の適正な管理・利用に向けた取り組み
- 2 「新しい林業・木材産業」に向けた取り組み
- 3 森林資源の地産地消によるまちづくりへの貢献
- 4 地産外商による木材産業の競争力向上
- 5 森林・林業・木材産業の新たな価値づくり

●構想の期間

2022（令和4年）度から2031（令和13）年度まで



図-5 グリーン成長構想

第1 実施団体・事業背景について

2 事業の背景・目的について

「SDGs（持続可能な開発目標）」や政府の「2050 カーボンニュートラル」表明等もあり、二酸化炭素削減に向けた木材利用が求められる新たな展開が期待される。なお、渋谷区は、令和2年度に木材利用推進方針を施行しており、調達する木材として、「防災協定締結自治体の木材」、「東日本大震災被災自治体の木材」、「多摩産材」、「森林認証材」を掲げている。

令和2年度に協議会において都市部に拠点を持つ木材関連企業等を対象に実施したアンケート調査結果では、ユーザー層から「国産の森林認証材」の注文や問合せが増加傾向にあるものの、供給側ではメリットを感じていない回答が多く、ユーザーと供給側の温度差があることが読み取れた（図-6、図-7、図-8）。

以上のことから、森林認証材のサプライチェーンを構築することが差別化要因になりうると思われるため、本事業により協議会関係者との連携によるマーケットイン型の森林認証材サプライチェーンの構築を目指すものである。

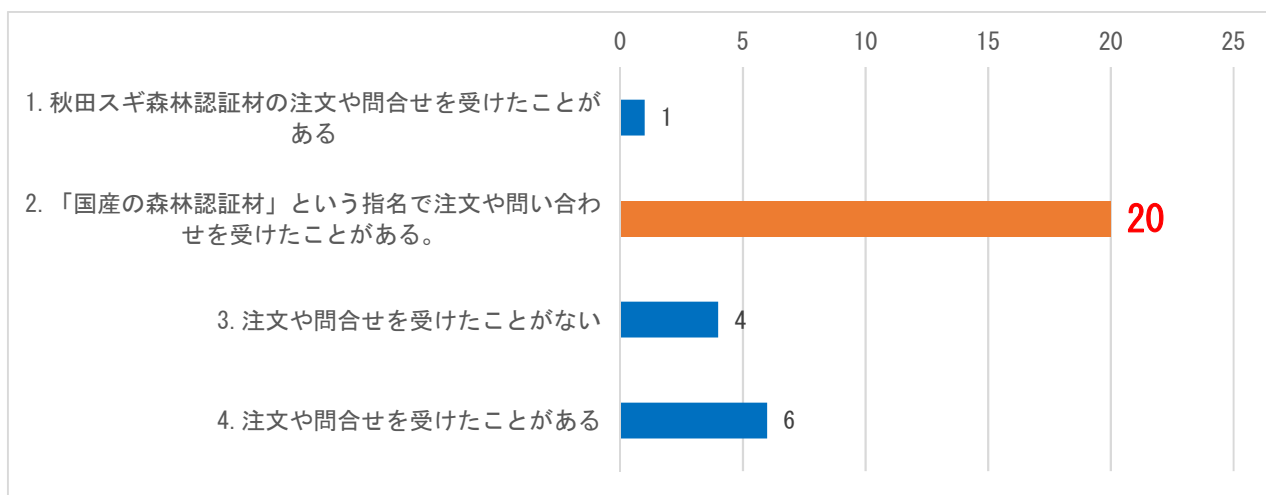


図-6 アンケート結果：森林認証材の注文や問合せ状況について（n=31）

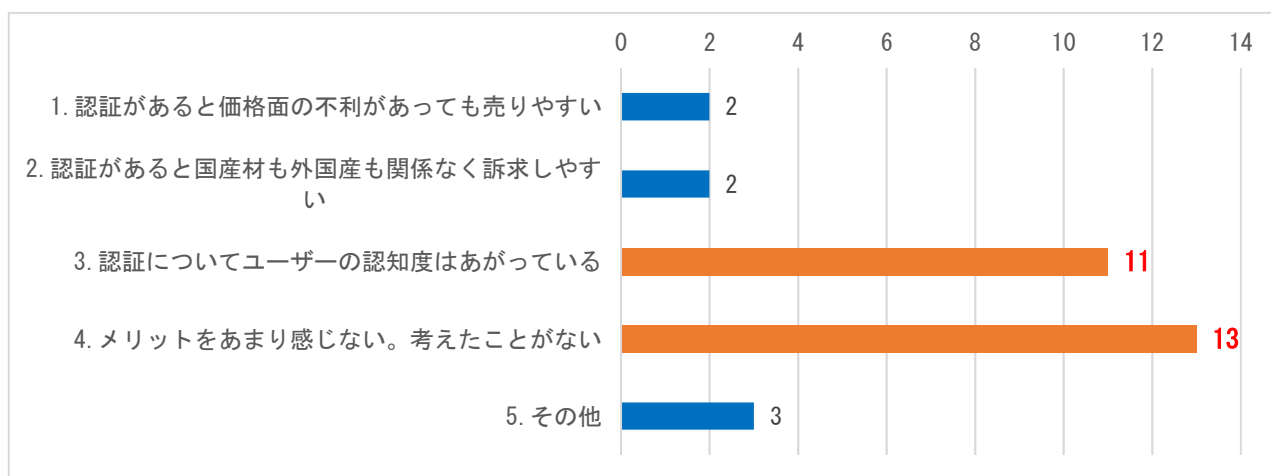


図-7 アンケート結果：森林認証材のメリットを感じているか（n=31）

第1 実施団体・事業背景について

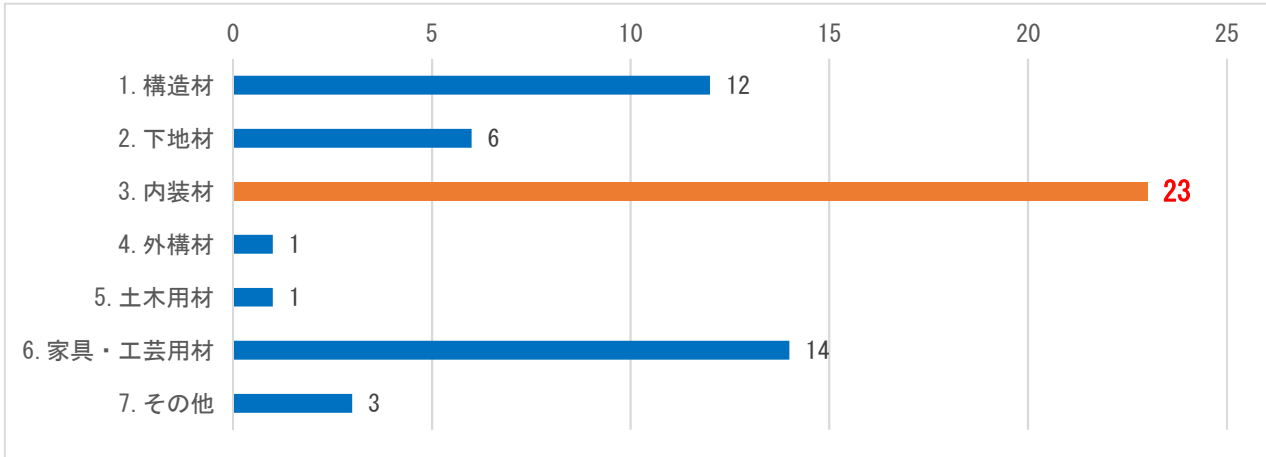


図-8 アンケート結果：森林認証材の需要（材料）について
(n=31/注文や問合せが多いものを3つ選択)

なお、大館市では令和3年度より木材の利用の促進に関する8つの施策をまとめた「大館市木材利用促進計画（図-9）」を施行しており、令和4年度には大館市有林（約2,295ha）における森林認証（FM-SGEC）取得を予定※としている。

※現在は取得済み（本事業申請時は未取得）。

大館市 木材利用促進計画
令和3年度～令和5年度

WOOD CHANGE!

市の木材の利用の促進に関する8つの施策

- 1 市が整備する公共建築物の木造化及び内装木質化の推進**
公共建築物の施設整備は率先して木造・木質化を図ります。また、新たな建築資材として注目されているCLT等を公共建築物へ活用可能な仕様に加工した木材製品を供給し、木造化の普及と定着を図ります。
- 2 公用備品等における木製導入の推進**
公用備品（備品等）する場合には、木製品・木材由来商品等の積極的な利用を図ります。
- 3 公共土木事業等における木材利用の推進**
公共土木事業における木材利用の拡大を図ります。また、災害における防災物資等の製造の促進等に関する法律に基づく防災備蓄物品に追加されたロングリード型採用が従来の森林材料の利用を促進します。
- 4 住宅・非住宅への木材利用の推進**
民間部門での森林産材の需要を拡大するため、新築住宅への材料を支援します。また、福祉施設、子育て施設、交流施設などの非住宅分野での木造・木質化を支援します。
- 5 木質資源の多面的利用の推進**
ペレットストーブやチップボイラーの導入や木材・ブラークチップの生産木材等の活用により、木質資源の多面的利用を促進します。
- 6 都市部等との連携による木材利用の推進**
木材産業事業者が、都市部の実需者・消費者の求める品質・性能の確かな地元産材を供給できるよう、サブセンターの機能強化を図ります。また、トップセールス等により、地元産材の新たな販路開拓や販路拡大を図ります。
- 7 木育の推進**
子供から大人まで木とふれあう機会を創出する。イベント等で大宮から採れた国産材を体験するほか、学校での林業・木材産業に関する学習及び体験活動、NPO団体等が実施する事業活動などを支援します。また、木の文化が木育の基盤を形成するよう、人材を養成します。
- 8 「木の文化」を活かした「木のおもてなし」の推進**
本市が培ってきた「木の文化」を活かし、観光客等へ木を使った商品や製品、サービス・体験の提供の向上を図る「木のおもてなし」の取り組みを推進します。

～ WOOD CHANGE! ODATE ～

図-9 大館市木材利用促進計画 概要版

第2 事業内容と結果

1 事業計画概要について

（1）需要拡大を期待するターゲットと材種

- ①ターゲット：渋谷区、東京都内民間企業等
- ②材種：内装材、下地材

（2）事業計画

①協議会の運営

- ・森林認証サプライチェーン構築に関する意見交換、合意形成、進捗管理
- ・森林認証材の需要対応を目的とした協議会関係者の伐採～加工～供給～利用の流通体制の整備と森林認証材に関するプラットフォーム形成

②優良事例研究、需要調査・PR、普及促進

- ・先進地調査（北海道地域等）、需要者ヒアリング調査・PR（渋谷区、都市部企業等）、森林認証に関するセミナー開催

③事業報告

- ・協議会ホームページでの事業成果等公表
- ・ウェブセミナー等での事業成果発表による他地域への横展開

（3）成果の普及・活用手法

①成果の普及

大館市では、令和3年8月より木材利用促進を目的に森林・林業・木材産業に関するWEBセミナー「WOOD CHANGE! ODATE ウェビナーシリーズ」を月1回ペースで配信しており、地域内外の方が視聴している。※令和4年度8回開催、262名参加（うち161名地域外参加）

当該WEBセミナーにおいて森林認証をテーマとしたセミナーや本事業の成果報告等を行うことで他地域への事例紹介等による横展開が期待できる。

②成果の活用

令和4年度より工務店や設計関係者が協議会へ新規加入予定となっており、本事業の成果を活かし、地域内の住宅や公共施設への利用が期待できる。また、大館市では令和4年度以降に改正・木材利用促進法を踏まえた、「大館市木材利用基本方針」を改正予定としており、調達する木材として「森林認証材」について明記されることが期待できるほか、森林認証材利用を目指す民間事業者等との「建築物木材利用促進協定」の締結が期待できる。

（4）実施体制

協議会内に森林認証材の需要拡大に関するワーキンググループ等を設置し、事業内容に関する協議や進捗管理を行うものとする。アドバイザーとして秋田県立大学木材高度加工研究所に参画いただくほか、必要に応じて森林認証に関する技術者等からのアドバイスを求めるものとする。

第2 事業内容と結果

2 事業内容と結果について

次に掲げる（1）～（3）の事業を実施した。

（1）協議会の設置・運営

①WG 開催

ア 第1回 WG（図-11、図-12）

<p>概要</p>	<p>日時：令和4年8月31日（火）午後1時半～3時半 会場：大館市北地区コミュニティセンター 本館 会議室（秋田県大館市有浦） 人数：19人（素材生産、木材加工、木材流通、建築設計、IT事業者、行政、オブザーバー、学識経験者等） 内容：(1)森林認証制度とWGの目的について (2)北海道視察の結果報告 (3)WGの取り組み内容とスケジュールについて (4)意見交換</p>
<p>写真等</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図-10 第1回 WG</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図-11 第1回 WG</p> </div> </div>
<p>結果等</p>	<p>●議事要旨</p> <p><u>(1)森林認証制度とWGの目的について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会として森林認証に取り組む目的とメリットについて確認。 <p><u>(2)北海道視察の結果報告</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道地域における森林認証に関する取り組み状況や道内でのプロジェクト認証に関する成果について報告。 <p><u>(3)WGの取り組み内容とスケジュールについて</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・林野庁補助事業の実施内容とスケジュールについて確認。 <p><u>(4)意見交換</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・WGの取組みに関する方向性、森林認証のグループ認証（FM）やプロジェクト認証に関して意見交換を行った。

第2 事業内容と結果

イ 第2回 WG

<p>概要</p>	<p>日時：令和5年3月20日（月）午後1時半～3時 会場：大館市北地区コミュニティセンター 本館 会議室（秋田県大館市有浦） 人数：10人（森林組合、素材生産、木材加工、木材流通、行政、オブザーバー、外部有識者、学識経験者等） 内容：(1)今年度の取組状況について (2)来年度の取組内容について (3)意見交換 (4)情報提供（SGS ジャパン株式会社より）</p>
<p>結果等</p>	<p>●議事要旨 (1)今年度の取組状況について ・大館市有林における森林認証（SGEC-FM）の取得を報告。 ・森林認証材の需要拡大（林野庁補助事業）の実施状況を報告。 (2)来年度の取組内容について ・森林認証材の拡大予定について説明。 ・「令和5年度デジタル林業戦略拠点構築推進事業（林野庁補助事業）」への応募について説明。※令和5年3月27日付けで不採択通知 (3)意見交換 ・大館市有林の実証フィールド設定や認証材供給体制構築について意見交換を行った。 (4)情報提供（SGS ジャパン株式会社より） ・森林認証制度、グループ認証やプロジェクト認証に関する概要について説明。出席者からの質疑応答を行った。</p>

（2）森林認証材の需要拡大に向けた取組

①先進地調査

ア 北海道先進地視察

<p>概要</p>	<p>日 程：令和4年8月3日（水）～5日（金） 視察先：＜1日目：8月3日（水）＞ ①胆振東部森林管理署（白老郡白老町） ②mother's+（白老郡白老町）※ウッドデザイン賞2020受賞（図-12） ＜2日目：8月4日（木）＞ ③三津橋産業㈱（士別市）（図-13） ④昭和木材㈱旭川工場（上川郡東川町） ＜3日目：8月5日（金）＞ ⑤北海道庁（札幌市）※水産林務部森林環境局道有林課ほか ⑥物林㈱札幌事務所（札幌市）</p>
-----------	---

第2 事業内容と結果

	<p>参加者：(株)杏澤製材所 常務取締役 杏澤 俊和（木材加工） 藤島木材工業(株) 取締役 藤島 新（木材加工） 鹿角市 主幹兼班長 関 尚人（行政） 小坂町 事務局長補佐 相馬 一之（行政） 大館市 主任 加賀谷 洋昌（行政） 大館市 主任主事 千葉 泰生（行政）</p>
<p>写真等</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図-12 mother' s+</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図-13 三津橋産業(株)</p> </div> </div>
<p>結果等</p>	<p>< 1日目：8月3日（水） ></p> <p><u>①胆振東部森林管理署（白老郡白老町）</u> 対応者：次長 福井 敬育 氏 ほか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胆振東部森林管理署管内のむかわ町が森林認証を取得したのがきっかけに、むかわ町内の国有林について、森林認証を取得。認証取得に関してむかわ町からの要請もあったとのこと。 ・令和4年度の認証材生産量は約2,700m³を計画。立木、丸太販売以降の流通については特段把握していない。 ・アイヌの関連団体より国有林内の林産物の採取に関して要望を受け、対応策として共用林野の設定を打診しているが、なかなか進展せず。 <p><u>②「mother' s+」見学（白老郡白老町）※ウッドデザイン賞2020受賞</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーナーの種鶏業を活かしてグリーンツーリズムや生産加工から販売までを一ヶ所で体験できる施設。カラマツ CLT、集成材を使用。 <p>< 2日目：8月4日（木） ></p> <p><u>③三津橋産業(株)（土別市）</u> 対応者：代表取締役 三津橋 央 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証については経済的なメリットは無いにしても長期的視野で企業として認証制度に取り組む必要があると感じた。また、消費者にも知っていただきたい意図もある。 ・認証林面積が増えないことには、認証材（原木）の確保が難しい。北海道の森林面積の半分以上が国有林であり、国有林が取得しないと普及は難しい。 ・公共物件も道産材指定はあっても認証材指定は無い状況。

第2 事業内容と結果

	<p><u>④昭和木材(株)旭川工場（上川郡東川町）</u> 対応者：専務取締役 高橋 謙太郎 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広葉樹については、針葉樹よりも加工後の細分化の部分がとても大きく、しっかり取り組むことで付加価値はあがっていくものの、認証管理上は複雑すぎて実用化が難しい。原木から製品として出荷するまでに2年かかる場合も。 ・認証を取得したきっかけは公共物件やオリンピックでの需要を見越していたが、ほとんどが国産材であり、輸入材取扱が多い当社はあまり効果が無かった。 ・目的が明確になるので今のところはプロジェクト認証が現実的だと思う。 <p>< 3日目：8月5日（金） ></p> <p><u>⑤北海道庁（札幌市）</u> 対応者：水産林務部森林環境局道有林課 課長補佐 河江 輝樹 氏 ほか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道として認証取得を推進しているが、道有林での認証取得については、各地域の林業者や市町村側で動きがある地域で取得してきている。 ・道有林の認証材販売については、CoC 限定入札や協定販売により販売。 ・木材利用促進法に基づく都道府県方針において、道産材は明記しているが、認証材に関しては明記していない。 <p><u>⑥物林(株)札幌事務所（札幌市）</u> 対応者：営業本部北海道グループ長 中根 幹成 氏 ほか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証材の普及のためには、「法的整備」、「品質と数量の約束」、「消費につながる差別化」が必要と考えている。認証材を使わなきゃダメくらいの根拠が無いと普及化は厳しいと思われる。 ・J-クレジットのように、認証材を使うとメリットが出てくるような仕組みがあれば大手企業も動き出すと思う。
--	--

イ 宮城県先進地視察

概要	<p>日程：令和5年3月13日（月）～14日（火） 視察先：< 1日目：3月13日（月） ></p> <p>①登米市産業経済部農林振興課（登米市） < 2日目：3月14日（火） ></p> <p>②登米町森林組合（登米市）（図-14、図-15） ③石巻合板工業(株)（石巻市）</p> <p>参加者：(有)伊東農園 伊東 裕祐（素材生産／苗木生産） (株)石川組 代表取締役副社長 石川 裕太郎（素材生産） 藤島木材工業(株) 取締役 藤島 新（木材加工）※14日途中まで参加 物林(株)営業本部資材グループ グループ長 田口 慎二（木材流通） 物林(株) 盛岡営業室 吉田 誠也（木材流通）※14日より参加 東光コンピュータ・サービス(株) 部長 戸田 宏幸（IT・ICT 関連）</p>
----	---

第2 事業内容と結果

	<p>小坂町 事務局長補佐 相馬 一之（行政） 大館市 主任 加賀谷 洋昌（行政） 大館市 主任主事 千葉 泰生（行政）</p>
写真等	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;"> 図-14 登米町森林組合 図-15 登米町森林組合 </p>
結果等	<p>< 1日目：3月13日（月） > <u>①登米市産業経済部農林振興課（登米市）</u> 対応者：主幹兼係長 菊池 郁夫 氏、主事 中沢 智哉 氏 ・南三陸町での FSC 取得の流れで議員から提案を受け、取得に至った。FM 事務局を担っている。 ・認証林については平成 28 年取得時 2,717ha から令和 4 年 9,162ha まで取得面積が増加。</p> <p>< 2日目：3月14日（火） > <u>②登米町森林組合（登米市）</u> 対応者：参事 竹中 雅治 氏 ・登米市の FM 事務局に対して、当組合が CoC 事務局として原木の流通管理を担っている。 ・FSC を取得したおかげで優先的に原木を受け入れてくれたケースもあり。 ・クラウドシステム、タブレット端末については要件定義が肝。また、なるべくシンプルに。</p> <p><u>③石巻合板工業㈱（石巻市）</u> 対応者：東部営業所長 次長（兼）業務次長 高橋 利信 氏 ・認証材利用も含め、国産材利用率が非常に高まった。認証製品の流通量を拡大していきたい。</p>

②需要者ヒアリング調査・PR

ア 森林認証材の需要拡大に関するアンケート

概要	<p>目的：森林認証材の供給に向けて体制整備を進めている当地域の在り方や取組みについて検討するため</p> <p>期間：令和5年1月24日（火）から2月10日（金）まで</p>
----	--

第2 事業内容と結果

	回答方法：大館市電子申請・届出サービス（WEB 回答） 回答依頼先：木材利用関係事業者（日本ウッドデザイン協会会員、協議会等主催イベント等参加企業、出展イベント名刺交換企業、ウェビナーシリーズ参加者等へメール案内） 結果等：28 者（分析結果は後述）
--	---

イ 1 回目調査・PR（東京都）

概要	日程：令和5年2月14日（火）～2月17日（金） 訪問先：＜1日目：2月14日（火）＞ ①一般社団法人緑の循環認証会議（千代田区永田町） ②林野庁国有林野部経営企画課（千代田区霞が関） ③住友林業(株)資源環境事業本部脱炭素事業部（千代田区大手町） ＜2日目：2月15日（水）＞ ④大建工業(株)情報渉外部（千代田区外神田） ⑤三菱地所レジデンス(株)経営企画部（千代田区大手町） ⑥一般社団法人日本ウッドデザイン協会（港区新橋） ⑦一般社団法人日本森林技術協会（千代田区麴町） ⑧(株)INPEX 再生可能エネルギー・新分野事業本部（港区赤坂） ＜3日目：2月16日（木）＞ ⑨(株)乃村工藝社 ビジネスプロデュース本部（港区台場） ⑩(株)キーテック（江東区新木場） ⑪物林(株)（江東区新木場） ＜4日目：2月17日（金）＞ ⑫住友林業クレスト(株)（中野区中央） ⑬MUJI.com 武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス（新宿区谷田町） （図-16、図-17） 参加者：鹿角市 主幹兼班長 関 尚人（行政） 大館市 主任 加賀谷 洋昌（行政） 大館市 主任主事 千葉 泰生（行政）
写真等	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図-16 MUJI.com 武蔵野美術大学</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図-17 MUJI.com 武蔵野美術大学</p> </div> </div>

第2 事業内容と結果



ウ 2回目調査・PR（秋田市）

概要	<p>日程：令和5年3月1日（水）午後1時半～2時半</p> <p>訪問先：秋田プライウッド㈱（秋田市向浜）</p> <p>参加者：物林㈱営業本部資材グループ グループ長 田口 慎二（木材流通） 大館市 主任 加賀谷 洋昌（行政） 大館市 主任主事 千葉 泰生（行政）</p>
----	--

エ 3回目調査・PR（仙台市）

概要	<p>日程：令和5年3月15日（水）</p> <p>訪問先：①㈱乃村工藝社 東北支店（青葉区一番町） ②(有)シェルージュ（宮城野区二十人町） ③宮城県水産林政部林業振興課（青葉区元町）</p> <p>参加者：大館市 主任 加賀谷 洋昌（行政） 大館市 主任主事 千葉 泰生（行政）</p>
----	---

③セミナー開催

概要	<p>日時：令和5年2月10日（金）午後1時半～2時半</p> <p>会場：zoom ウェビナー</p> <p>内容：WOOD CHANGE! ODATE ウェビナーシリーズ 「森林認証材の利用拡大に向けて ～SGEC 認証材の商品化・プロジェクト認証の実例～」 ⇒森林認証（SGEC-FM）の取得を予定している大館市有林において、今後生産される森林認証材の需要拡大に向け、認証材の商品化事例やプロジェクト認証の取り組みについて紹介いただいた。（図-18、図-19）</p> <p>講師：一般社団法人緑の循環認証会議（SGEC/PEFC ジャパン） 事務局長 梶谷 辰哉 様 ※冒頭挨拶 国際部長 チェン 加賀子 様 ※講演</p> <p>人数：申込者 35 人／ログイン確認 30 人</p>
写真等	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図-18 ウェビナーの様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図-19 ウェビナーの様子</p> </div> </div>

第2 事業内容と結果

結果等	<p><アンケート結果（WEB 回答）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト認証の事例を数多く紹介いただき大変満足です。一般の認証材の事例紹介もいただけたらなとおおありがとうございました。 ・認証材の使われ方を具体的に知ることができました。 ・数多くの SGEC の認証材プロジェクト例を知ることができたのはとても興味深いことでした。時間上止むを得ないと思いますが、材の生産側と利用側の関係性がどのようになっているのかなど、詳細を知る時間があるとなおよかったと思いました。 ・認証材利用の推進は、現状において公的助成と密接であると思いました。 ・プロジェクト認証のメリットに関するお話と、住宅ローン金利のお話に興味を持ちました。単に地域材活用というだけでなく、認証材を使用することで付加価値が付き、より環境に配慮した取り組みになる点を自身の活動においても意識しておきたいと思いました。 ・素材生産側としては直接認証材が使われる場面に関わらないことが多いと思うので、そこをうまく利用して木育等に発展させられればと思いました。
-----	--

（3）事業報告書の作成・公表

①事業報告

概要	<p>実施内容：森林認証材の需要拡大に関するアンケート集計結果分析、考察 依頼先：森林資源バイオエコノミー推進機構㈱</p>
結果等	<p><アンケート設問と分析結果（所見）※抜粋></p> <p><u>問1 業種について</u> 所見：川中と川下ではほぼ同じ職種が見受けられる。営業エリアに関して、木材は輸送コストが大きいこと、全国に杉産地は点在していることから、長期的に認証材が増えて行くと、近隣の顧客からの支持が重要になると想定される。</p> <p><u>問2 森林認証（CoC）の取得状況について</u> 所見：取得率は今回の回答全体では 47%、川中企業のみでは 69%（13 社中 9 社）。以後も環境保護重視の生産活動が重視されるであろうから、認証取得に向けて動くことは支持されるものと想定する。</p> <p><u>問3 森林認証材の調達について</u> 所見：7割近くの企業が認証材に関わる取引経験あり、認知は広がっている。／森林認証材の取り扱い理由について、現状は需要者次第ということがわかる。／非認証材と比較した品質を理由に扱うケースは少ない。</p> <p><u>問4 調達する森林認証材の産地として魅力的に思える地域について</u> 所見：魅力的に思う（実際は調達していない）のと定常的に調達している先は分けるべきであった。取引がないのに魅力的に思ってしまう理由が営業の参考になる。</p> <p><u>問5 森林認証材の調達において最も重要な点</u></p>

第2 事業内容と結果

	<p>所見：合法性も重視されており、認証保有することはこの点で優位性を持つ。</p> <p><u>問6 森林認証材の注文や問合せについて</u></p> <p>所見：残念ながら秋田スギ森林認証材の指名買いはほぼ無い。認証材であるかどうかはまず選定基準となり、その後認証材間での競合があると読み取れる。</p> <p><u>問7 森林認証材のメリット</u></p> <p>所見：メリットをあまり感じないと11社が回答しているが、4社は認証取得済である。逆に言うと、取得済み企業の69%（13社中9社）はメリットを感じていると読み取れる。</p> <p><u>問8 国産の森林認証材の需要について</u></p> <p>所見：公共工事での認証材指定が多いことが読み取れる。</p> <p><u>問9 木材（または森林認証材）の調達に関する意思決定について</u></p> <p>所見：需要家の情報の取り方が受動的であることが読み取れるため、産地からのセールス活動を行えば目立つと想定される。</p> <p><u>問10 調達に関する情報収集で不便を感じる事</u></p> <p>所見：需要家の困りごとが、セールスの突破口となりうる。／自治体の努力で情報提供することで、他自治体との差別化を図ることができるかもしれない。／全体的に「情報へのアクセス」が不便の根源の1つと読み取れる。</p> <p><u>問11 最終消費者に森林認証制度への理解、森林認証材の利用促進について</u></p> <p>所見：最終消費者への啓蒙は重要ではあるが、一企業や一自治体にて取り組むには大き過ぎるテーマである。現実的、短期的には最終消費者よりも流通側へのアピールのほうが効果的だと想定される。</p> <p><u>問12 当地域（大館市・周辺地域）の森林認証材への興味について</u></p> <p>所見：興味ありとの回答3社のうち、1社は認証取得済みの関東エリアの企業、2社は認証非取得の企業。積極的に知りたいとしてくれた1社にはすぐにでも連絡をいれるべきである。</p> <p><u>問13 川上（木材供給側）に今後求めたいことや期待したいこと</u></p> <p>所見：比較論でFSCの優位の声がある。／ウェビナーや当協議会など、当市の取り組みや発信に対しての期待や賞賛の声があり、この点は継続できれば当市材の認知向上及びブランド価値につながる可能性がある。</p>
--	---

第3 事業実施により得られた効果

1 期待される効果及び事業実施により得られた効果

本事業では次の4つの期待される効果を設定し、事業に取り組んだ。

（1）地方・都市部自治体連携の森林認証材利用モデルの構築

期待される効果 【設定時】	地方（大館市）・都市部（渋谷区、企業等）の連携により、都市部での森林認証材利用による木質化事例を創出することで、森林認証材の認知度向上に寄与することができる。
事業実施により得られた効果 【実施後】	<p>●<u>需要者調査・PR等の実施により当地域における森林認証の取り組みについて周知を図ることができた</u></p> <p>・地域内外の事業者等へ森林認証の取得について報告を行ったことで、新たな取り組み等への期待感を伺うことができた。※渋谷区については大館市単独事業において訪問説明済み（令和5年3月29日）。</p>

（2）都市部民間施設への波及

期待される効果 【設定時】	（1）の事例増加により、都市部での民間施設での森林認証材利用が期待できるほか、森林認証材利用を目指す民間事業者等との「建築物木材利用促進協定」の締結による森林認証材需要拡大が期待できる。
事業実施により得られた効果 【実施後】	<p>●<u>森林認証取得の拡大（予定）により認証材利用への期待度向上に寄与</u></p> <p>・協定締結等の具体の協議には至らなかったが、都市部企業より具体の製品要望を受けるなど、当地域の認証製品への期待度の高さが伺えた。</p>

（3）秋田県産森林認証材の需要拡大

期待される効果 【設定時】	（2）の民間施設等での利用拡大により、秋田県産森林認証材需要が高まることで、県内他地域の森林認証林（秋田県有林、上小阿仁村有林等）の需要拡大が期待できる。
事業実施により得られた効果 【実施後】	（1）の記載事項と同じ。

（4）森林認証材サプライチェーン構築事例の横展開による森林認証取得拡大

期待される効果 【設定時】	（1）～（3）の効果により周辺地域（民有林・国有林）での森林認証取得が期待できる。
事業実施により得られた効果 【実施後】	<p>●<u>森林認証林拡大に向けた機運醸成につながった</u></p> <p>・民有林においては令和5年度においてグループ認証等による認証林面積の拡大が予定されているほか、国有林に対しても認証取得要望を行ったことで更なる面積拡大が期待されている。</p>

第4 今後の課題と次年度以降の計画

1 今後の課題

本事業の実施により見えてきた今後の課題について次のとおり示す。

今後の課題 1	森林認証材供給体制の構築
<p>・森林認証面積の拡大とともに、森林認証材（素材、製品等）の安定的な生産量確保による供給体制構築が必要。また、ニーズに応じた認証材製品供給のため、CoC認証取得企業との連携化が必要。</p>	
今後の課題 2	森林認証材需要の創出
<p>・需要者ヒアリング調査等の実施により潜在的なニーズや具体の製品要望を把握できたことから、マーケットインによる認証材供給実績の創出が必要。</p>	

2 次年度以降の計画

今後の課題や本事業での成果等を踏まえ、次年度以降の計画について次のとおり示す。

計画・取組 1	森林認証林の拡大
<p>①協議会においてSGEC-FM森林認証グループ認証取得を予定</p> <p>・大館市有林（約2,295ha）、小坂町有林（約117ha）、株石川組社有林（約410ha）で令和5年度にSGEC-FM森林認証グループ認証取得を計画。</p> <p>②鹿角市においてSGEC-FM森林認証を予定</p> <p>・鹿角市有林（約1,164ha）で令和5年度にSGEC-FM森林認証取得を計画。</p> <p>③国有林（米代東部森林管理署/10.1万ha）へ森林認証取得を要望</p> <p>・令和4年度秋田県国有林野等所在市町村長有志協議会（令和4年10月18日）において、大館市より国有林に対し、森林認証の取得を要望。令和5年度も協議会自治体会員（大館市・鹿角市・小坂町）による要望を検討。</p>	
計画・取組 2	森林認証材サプライチェーン構築に向けた実施体制の構築
<p>①林認証材の安定供給に向けた実施体制の確保</p> <p>・森林認証森林の拡大とともに役割を担うプレイヤーの設定が必要であることから、森林認証取得者（または取得予定者）との役割分担等を明記した協定等を締結し、本プロジェクトの協力体制及び実施体制の構築を図る。</p> <p>②実証フィールドの設定</p> <p>・主伐施業等の実証フィールドの確保のため、大館市有林約30haを実証フィールドとして設定し、林分調査を実施のうえ、主伐・再造林施業について計画する。</p>	

参 考 資 料

第1回 WG 配布資料	21
第2回 WG 配布資料	30
森林認証材の需要拡大に関するアンケート (WEB 画面)	36
事業者ヒアリング・PR説明資料	43
WEB セミナー講演資料	52
森林認証材の需要拡大に関するアンケート分析レポート	75

大館北秋田地域林業成長産業化協議会
森林認証材サプライチェーン構築WG 第1回WG

次 第

日 時：令和4年8月31日（水）13：30～15：30

会 場：大館市北地区コミュニティセンター 本館 会議室

1	開 会
2	WGメンバー自己紹介
3	協議案件 (1) 森林認証制度とWGの目的について ※事務局説明 (2) 北海道視察の結果報告 ※事務局説明 (3) WGの取り組み内容とスケジュールについて ※事務局説明 (4) 意見交換
4	その他
5	閉 会

森林認証制度

地球環境保全に貢献する森林やその経営体が、持続的にかつ環境に配慮しながら管理されているかを、評価・保証する認証制度 (FM認証/Forest Management) および森林や経営体から生産された木材が、加工・流通を通して消費者に届くまでの各段階において、適正に分別管理しているかを評価・保証する認証制度 (CoC認証/Chain of Custody) のこと。

「森林認証材サプライチェーン構築WG」設置の目的と目標

<目的>

協議会関係者との連携によるマーケットイン型の森林認証材サプライチェーンの構築を目的に、課題整理や取組内容の検討のため。

<目標>

- ・ 本地域における森林認証林の拡大と森林認証材の供給体制の構築
- ・ 秋田県産森林認証材の需要拡大と都市部や地元公共施設等での利用促進

★上記の取組内容を整理・検討し、WGからPTへの移行により実践へ

森林認証材サプライチェーン構築WGメンバー

川上

- ・ ㈱石川組 (約410ha)
- ・ 米代東部森林管理署 (約101,000ha)
- ・ 鹿角市 (約1,164ha)
- ・ 小坂町 (約117ha)
- ・ 大館市 (約2,295ha : SGEC-FM取得予定)

川中・川下・その他

- ・ ㈱沓澤製材所 (SGEC-CoC)
- ・ 藤島木材工業㈱・藤島林産㈱ (SGEC-CoC、FSC-CoC)
- ・ KSウッドソリューション㈱
- ・ 物林㈱ (SGEC-CoC、FSC-CoC)
- ・ ㈱恒谷汲川建築設計事務所
- ・ 東光コンピュータ・サービス㈱

地域の状況 (R4.8.31現在)

<FM認証>

○上小阿仁村有林 (約1,974ha) と秋田県有林 (大館市/早口県有林約126ha、鹿角市/宮川有林約189ha) が取得。

<CoC認証>

- 製材加工・集成材
㈱沓澤製材所、藤島木材工業㈱・藤島林産㈱、ティンバラム㈱花岡工場
- 木材流通 (原木)
㈲新林林業、(有)山田造材部

これまでの取り組み

<平成29年度>

・ 森林認証に関する勉強会 (H30.3月) 開催
⇒森林認証制度全般についての勉強会を開催。

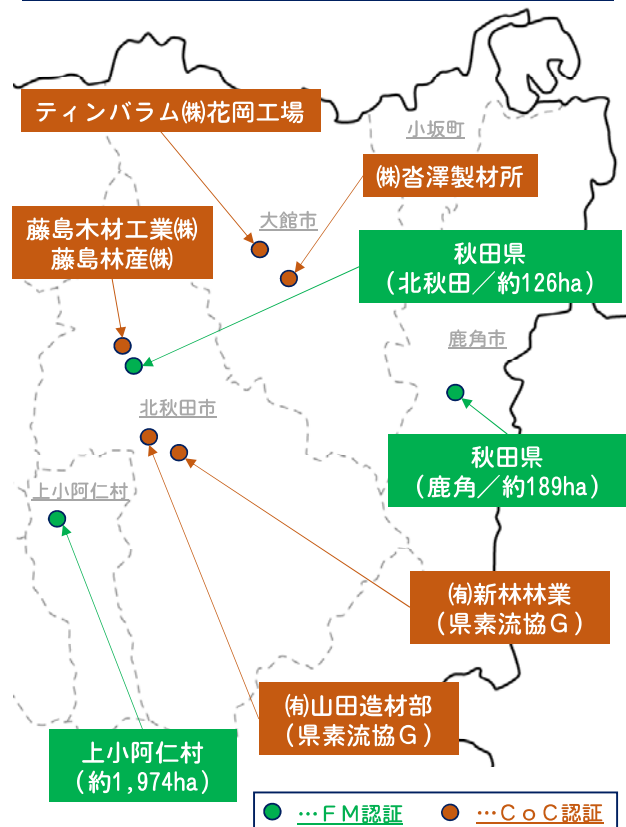
<平成30年度>

・ 先進地視察研修 静岡県浜松市 (H30.11月)
⇒FSC認証材の需要拡大に関する取り組みについて視察研修を実施。

<令和2年度>

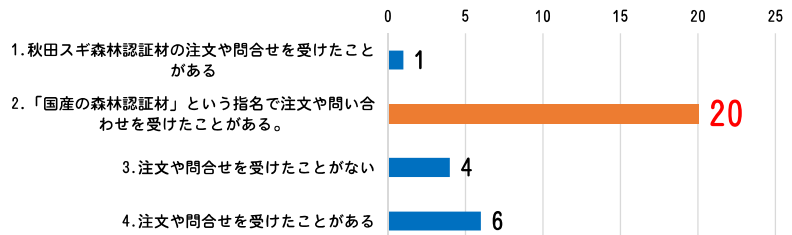
・ 都市部における木材利用に関するアンケート調査 (R2.9月)
⇒都市部企業を対象にアンケートを実施。

大館市周辺地域の森林認証 (SGEC) 取得状況図

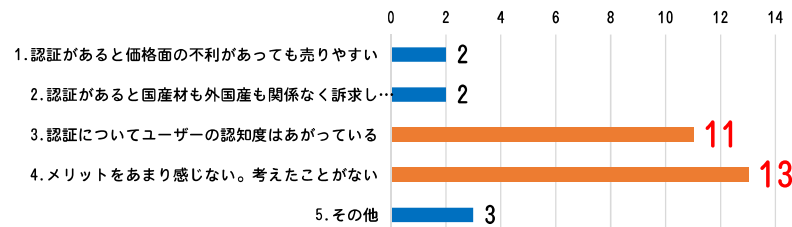


都市部に拠点を有する木材関連企業等を対象に実施したアンケート結果（令和2年度協議会調査）

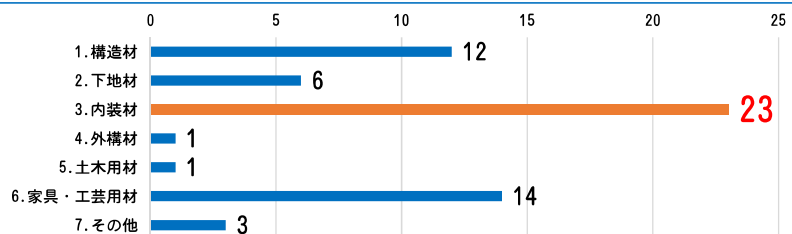
Q、森林認証材の注文や問合せ状況について（n=31）



Q、森林認証材のメリットを感じているか（n=31）



Q、森林認証材の需要（材料）について（n=31／注文や問合せが多いものを3つ選択）



都市部に拠点を有する木材関連企業等を対象に実施したアンケート分析結果（BePA／抜粋）

○森林認証材の注文や問合せ状況について／森林認証材のメリットを感じているか について

<分析内容>

- ・ユーザー層からは「国産の森林認証材」という指名買いが多く発生していることがわかる。
- ・一方で「メリットをあまり感じない、考えたことがない」が多数であり、ユーザーと供給側の温度差があることがわかる。

<所見>

- ・顧客側の認知があがり、指名買いも出てきている中、供給側の意識が低いというのが実態であれば、自分たちだけがこれを改善することで差別化要因となりうる。

○参考（その他所見）

<コモディティであることの認識>

- ・顧客はスギが産地により品質に差はあることを認めるものの、それを意思決定の最重要事項とはしていない。スギはほぼ全国から大消費地に向けて供給されている。
- ・スギは代替産地が多数あるコモディティであることを認識した販売活動をすべきでは。差別化のヒントは回答で重視された供給安定性、情報の使い勝手、取引の快適さ、といった価格・品質以外のところにもありえる。

<秋田スギブランド>

- ・過去の「天然秋田杉」ブランドは天然スギの出荷が止まったことで実質は中断されるべきであるが、頭の中には残っている顧客もある。
- ・そのイメージはそのまま活用しつつ、地道なマーケティング活動（相手が欲しい情報を使いやすい形態で提供）等を通して人工林由来の「秋田スギ」の取引は快適である、情報を得やすいという評判を得ることができれば、他産地から一歩抜きん出ることにも可能ではないか。

参考情報（大阪・関西万博「持続可能性に配慮した調達コード」）

持続可能性に配慮した木材の調達基準（抜粋）

1. 本調達基準の対象は以下の木材とする。
 - ア 建設材料として使用する製材、集成材、直交集成板、合板、単板積層材、フローリング
 - イ 建設に用いられるコンクリート型枠合板
 - ウ 家具に使用する木材（製材端材や建設廃材等を再生利用するものを除く）
2. 上記1の木材について、持続可能性の観点から以下の①～⑤が求められる。なお、サプライヤーはコンクリート型枠合板については再使用の促進に努め、再使用する場合でも①～⑤を満たすことを目指し、少なくとも①は確保されなければならない。
 - ①伐採に当たって、原木の生産された国又は地域における森林に関する法令等に照らして手続きが適切になされたものであること
 - ②中長期的な計画又は方針に基づき管理経営されている森林に由来するものであること
 - ③伐採に当たって、生態系が保全され、泥炭地や天然林を含む環境上重要な地域が適切に保全されており、また、森林の農地等への転換に由来するものでないこと
 - ④森林の利用に当たって、先住民や地域住民の権利が尊重され、事前の十分な情報提供に基づく、自由意思による合意形成が図られていること
 - ⑤伐採に従事する労働者の労働安全・衛生対策が適切に取られていること
3. FSC、PEFC、SGECによる認証材については、上記2の①～⑤への適合度が高いものとして原則認める。（以下、略）



大阪・関西万博
「持続可能性に配慮した調達コード」

北海道視察実施要領（抜粋）

<目的>

当協議会の令和4年度事業計画において「地産地消・地産外商の促進に向けた新たなネットワークの構築」を目指しており、その取り組みの一環として「森林認証材の需要拡大」に取り組んでいる。森林認証の先進地である北海道地域の関係者の取り組み等を調査し、当地域における取り組みの方策等を検討するため、同地域の視察訪問を実施するものである。

<日程>

令和4年8月3日（水）～8月5日（金）

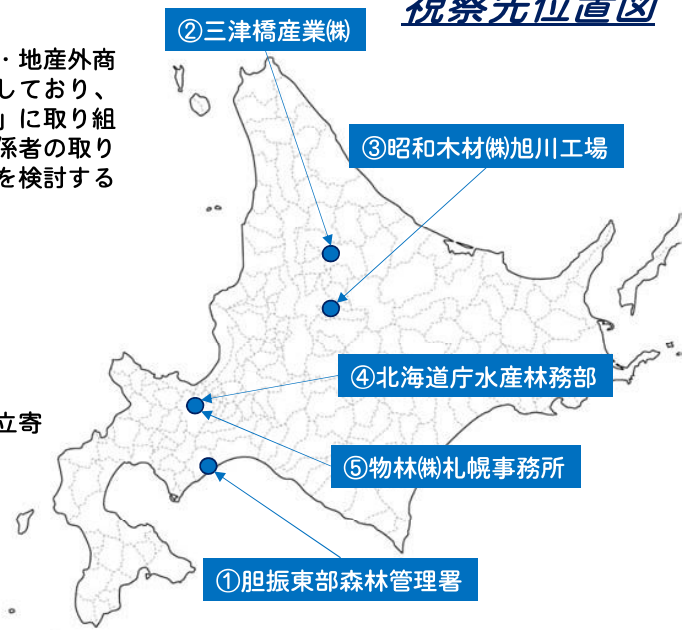
<視察先>

- 8月3日 ①胆振東部森林管理署（白老郡白老町）
⇒mother's+（白老郡白老町）立寄
※ウッドデザイン賞2020受賞
- 8月4日 ②三津橋産業㈱（士別市）
③昭和木材㈱旭川工場（上川郡東川町）
- 8月5日 ④北海道庁水産林務部（札幌市）
⑤物林㈱札幌事務所（札幌市）

<参加者>

株式会社沓澤製材所 常務取締役 沓澤 俊和（木材加工／針葉樹）
 藤島木材工業株式会社 取締役 藤島 新（木材加工／広葉樹）
 鹿角市産業部農地林務課森林経営管理班 主幹兼班長 関 尚人（行政）
 小坂町農業委員会事務局 事務局長補佐 相馬 一之（行政）
 大館市産業部林政課森林整備係 主任 加賀谷 洋昌（行政）
 大館市産業部林政課木材産業係 主任主事 千葉 泰生（行政）

視察先位置図



①北海道森林管理局胆振東部森林管理署（8月3日／白老郡白老町／SGEC-FM）

<視察概要（聞取内容）>

- 胆振東部森林管理署管内での国有林の管理経営について
- 森林認証に関する取り組みについて
- その他情報提供

<視察結果等>

○森林認証取得について
平成25年12月にむかわ町穂別地区の国有林約2万haにおいて森林認証（SGEC-FM）を取得。

○主要事業量（令和4年度版 胆振東部森林管理署管内概要資料より）

区分	単位	予定数量	備考
供給量	立木販売	m3	26,700
	製品販売	m3	28,000
造林	更新	ha	29 コンテナ苗23.4千本、裸苗35.2千本
	保育	ha	518 下刈492ha、根跡26ha
林道	新設	m	1,110 外改良工事1箇所予定
治山事業		m	405 導流堤



<森林認証に関して>

- 胆振東部森林管理署管内のむかわ町が森林認証を取得したのがきっかけに、むかわ町内の国有林について、森林認証を取得しています。認証取得に関してむかわ町からの要請がありました。
- （国有林への要請について）取得に関しては色々クリアしなければならない事があり、森林管理署や局と十分打合せをすることが必要だと感じます。
- むかわ町は当初は町内にC○C認証を取得している製材工場がなく、町内で生産した丸太を網走方面まで運搬して加工していました。その後は、町内の森林組合がC○C認証を取得し、町内で生産から加工までできるようになっています。
- 令和4年度の認証材生産量は約2,700m3を計画しています。

②三津橋産業株式会社（8月4日／士別市／SGEC-CoC）

<視察概要（聞取内容）>

- 1 北海道における三津橋産業(株)の取組みについて
⇒素材流通販売、木材加工、木材利用、森林認証の取組み
- 2 その他情報提供

<視察結果等>

- 広葉樹製材所
ナラを製材し地元の加工会社で木取り、出荷。ウスキー樽材も3～4年前から製材を開始。タモは枕木や道内の家具工場向け。
- 針葉樹製材+プレカット
エゾ、トド松、北欧ホワイトウッド(羽柄材)の取扱。
輸入材が復活してきており、販売単価がウッドショックのピークよりは下がる傾向にきている。
- チップ生産
工場を三ヶ所稼働、製紙向けに広葉樹・針葉樹材製紙用、バイオ燃料用を供給。
- 新工場（建設中）
針葉樹メインのフィンガー集成材工場を建設中。



<森林認証に関して>

- ・認証については経済的なメリットは無いにしても長期的視野で企業として認証制度に取り組む必要があると感じています。また、消費者にも知っていただきたい意図もあります。
- ・認証林面積が増えないことには、認証材（原木）の確保が難しいと感じています。北海道の森林面積の半分以上が国有林であり、国有林の取得面積が拡大しないと普及は難しいと思われます。
- ・公共物件も道産材指定はあっても認証材指定までは無い状況です。

③昭和木材株式会社（8月4日／上川郡東川町／FSC-CoC・SGEC-CoC）

<視察概要（聞取内容）>

- 1 北海道における昭和木材(株)の取組みについて
⇒素材流通販売、木材加工、木材利用、森林認証の取組み
- 2 その他情報提供

<視察結果等>

- 主な事業内容・取扱商品（会社案内資料より）
内装木材：広葉樹を主体とした造作用製材・集成材、フロアや羽目板などの製品、テーブルやチェスト等の家具
 - 構造木材**：針葉樹を主体とした柱梁等の構造用製材・集成材、構造材の住宅プレカット加工、木質階段のプレカット
 - 建 材**：国産や外国産、用途に応じた各種ベニヤ・ランバー・合板類
 - 原 木**：北海道内の造林および造材事業、国内外の原木輸入・販売
 - 住 宅**：旭川市内の宅建業務、注文住宅やモデルハウスの建設・販売
- 原木在庫量・取扱樹種について
原木在庫量：約8,000m³
取扱樹種：7～8割 北米材 Wオーク、Wナット他
2～3割 道産材 ナラ、タモ、クルミ、ニレ、カバ他



<森林認証に関して>

- ・広葉樹については、針葉樹よりも加工後の細分化の部分がとても大きく、しっかり取り組むことで付加価値はあがっていくものの、認証管理上は複雑すぎて実用化が難しいです。原木から製品として出荷するまでに2年かかる場合もあります。
- ・認証を取得したきっかけは公共物件やオリンピックでの需要を見越していましたが、ほとんどが国産材であり、輸入材取扱が多い当社はあまり効果が無かったように感じています。
- ・目的が明確になるので今のところはプロジェクト認証が現実的だと思います。

④北海道庁（8月5日／札幌市／SGEC-FM）

<視察概要（聞取内容）>

- 1 北海道における森林認証の取組みについて
- 2 北海道有林の管理経営について
- 3 その他情報提供

<視察結果等>

○北海道内の森林管理認証面積について（R4.3月末時点）

- ・全体：約145.1万ha

⇒全国の森林管理認証面積の約58%、道内森林面積の約26%

○道有林の認証材の安定供給について

- ・COC認証取得者限定入札

⇒COCを取得した事業者限定の立木販売を実施。

- ・認証材の協定販売

⇒地域のブランド力向上や新たな製品開発に取り組む事業者（素材生産業者、木材加工業者等）と協定を締結し、認証材を安定供給。

○美深町の仁宇布小中学校への認証材の供給（令和2年度）

- ・大規模木造建築物として国内初のSGECプロジェクト認証を取得。



<森林認証に関して>

- ・北海道として認証取得を推進しているが、道有林での認証取得については、各地域の林業者や市町村側で動きがある地域で取得しています。
- ・道有林の認証材販売については、COC限定入札や協定販売により販売しています。
- ・木材利用促進法に基づく都道府県方針において、道産材は明記しているが、認証材に関しては明記はしていません。

⑤物産(株)札幌事務所（8月5日／札幌市／FSC-CoC・PEFC-CoC・SGEC-CoC）

<視察概要（聞取内容）>

- 1 北海道における物流(株)の取組みについて
⇒素材流通販売、木材加工、木材利用、森林認証の取組み
- 2 その他情報提供

<視察結果等>

○森林認証取得について

2006年8月 PEFC（森林認証プログラム）-CoC認証取得

2007年8月 FSC（森林管理協議会）-CoC認証取得

2007年6月 SGEC（『緑の循環』認証会議）-CoC認証取得

○「人工林資源保続支援基金」について

・道内の人工林資源を活用する企業等が、その育成に貢献することを目的として、平成24年度に基金を設立。人工林の育成に関する以下の事業等に活用。

⇒コンテナ苗を活用した造林事業、造林未済地解消事業、クリーンラーチ採取園管理事業



<森林認証に関して>

- ・認証材の普及のためには、「法的整備」、「品質と数量の約束」、「消費につながる差別化」が必要と考えています。認証材を使わなきゃダメ！というくらいの根拠が無いと普及化は厳しいと思われます。
- ・J-クレジットのように、認証材を使うとメリットが出てくるような仕組みがあれば大手企業も動き出すと思います。

WGの取り組み内容について（林野庁事業／令和4年度森林認証材の需要拡大）

<事業趣旨（林野庁公募資料より）>

木材取引において、合法性や持続可能性の担保が求められることが一般的となりつつあり、これに応える森林認証材への期待が高まる中、森林認証材の需要の拡大を図ります。

<背景>

- ・渋谷区は令和2年度に木材利用推進方針を施行しており、調達する木材として、「防災協定締結自治体の木材」のほか「森林認証材」を掲げている。
- ・令和2年度に協議会において都市部に拠点を有する木材関連企業等を対象に実施したアンケート調査結果では、ユーザー層から「国産の森林認証材」の注文や問合せが増加傾向にあるものの、供給側ではメリットを感じていない回答が多く、ユーザーと供給側の温度差があることが読み取れた。
- ・令和4年度に大館市有林（約2,295ha）における森林認証（FM-SGEC）取得を予定している。

<事業目標>

・森林認証材のサプライチェーンを構築することが差別化要因になりうると考えられるため、本事業により協議会関係者との連携によるマーケットイン型の森林認証材サプライチェーンの構築を目指す。

<主な取り組み内容>

ア 協議会の運営

- ・森林認証サプライチェーン構築に関する意見交換、合意形成、進捗管理
- ・需要対応を目的とした協議会関係者の連携による伐採から利用までの流通体制の整備等

イ 優良事例研究、需要調査・PR、普及促進

- ・先進地調査、需要者ヒアリング調査・PR、セミナー開催

ウ 事業報告

- ・協議会ホームページでの事業成果等公表
- ・ウェブセミナー等での事業成果発表による他地域への横展開

<事業費>

事業費1,210千円（補助金額1,208千円） 執行済額457千円（執行率38%：R4.8.31現在）

WGの取り組み内容について（林野庁事業／令和4年度森林認証材の需要拡大）

<ア 協議会の運営>

メインテーマ：協議会関係者の連携による伐採から利用までの流通体制の整備

・大館市有林における「森林経営及び木材販売に係る協定書（次頁参照）」の取組成果を活かし、森林認証材生産・流通に係る新たな実施体制（プレイヤーと役割）を検討、構築する。

メインテーマと並行して協議する事項：森林認証材の拡大と森林認証制度の運用体制スマート化

・北海道視察の結果からも認証材需要拡大のためには認証材の拡大は重要であるため、WGメンバー（森林所有者）を中心にFM認証の取得について協議し、協議会でのグループ取得を目指す。

・COC（木材加工）について、現状は単独での取得となっていることから、事務負担・経費負担の軽減を図ることを目的に、グループ化について検討する。

<イ 優良事例研究、需要調査・PR、普及促進>

優良事例研究：北海道視察（実施済み）

需要調査・PR：都市部企業等を対象としたアンケート及びヒアリングの実施

- ・都市部企業等に対し、森林認証材に関するアンケートを実施する。
- ・アンケート回答者の中から数社を選定し、ヒアリングを実施する。

普及促進：森林認証材需要拡大に関するセミナー開催

- ・地域の林業関係者等を対象としたセミナーを開催する。

<ウ 事業報告>

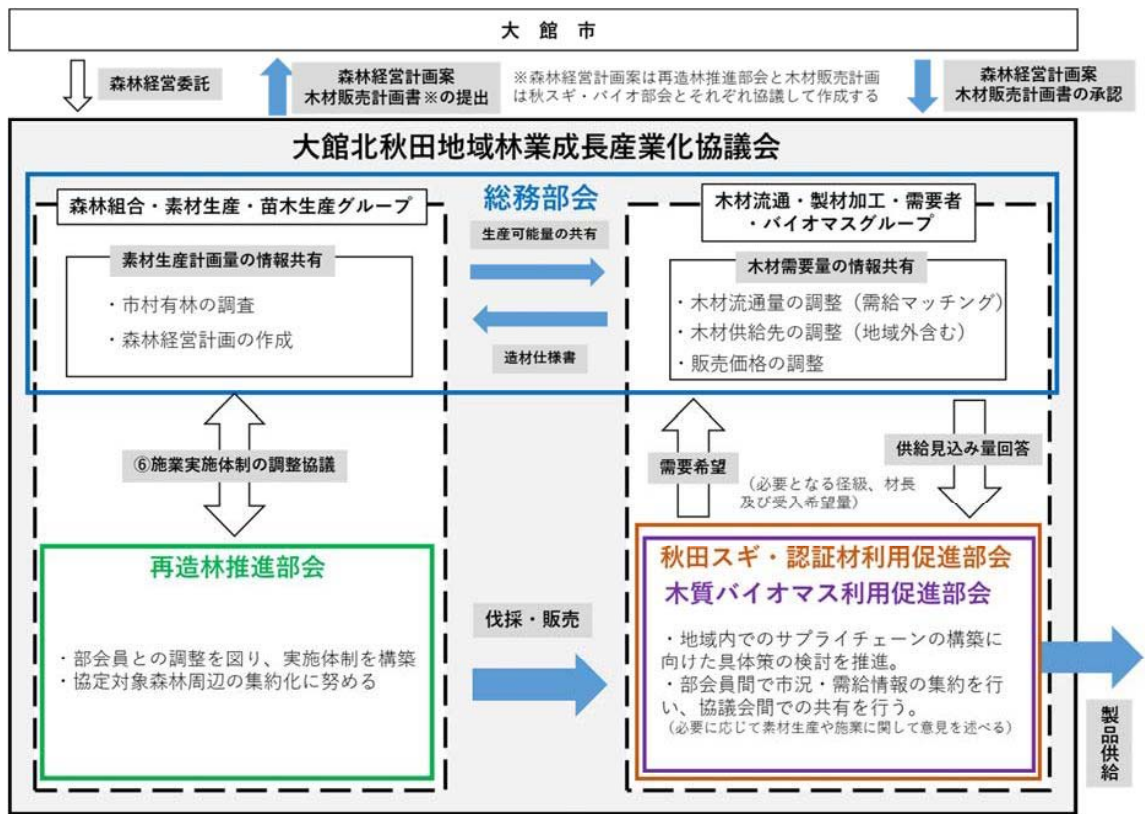
事業報告：事業報告書の公表と事業成果発表

- ・協議会HPで事業報告書を公表するとともに、ウェブセミナー等での成果発表を行う。

(3) WGの取り組み内容とスケジュールについて

資料3 3

参考：「森林経営及び木材販売に係る協定書」実行スキーム（令和元年度～3年度）



(3) WGの取り組み内容とスケジュールについて

資料3 4

WGの今後のスケジュールについて（林野庁事業／令和4年度森林認証材の需要拡大）

実施内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
大館市有林 森林認証取得 （本事業対象外）	森林管理マニュアル作成・審査・取得											
協議会運営（WG開催・ 認証材SC構築）					第1回WG (8/31)	第2回WG		第3回WG				
先進地調査					北海道視察 (8/3～8/5)							
需要者ヒアリング 調査・PR								訪問先との日程調整により決定				
セミナー開催								木材利用促進月間での開催				
事業報告											ウェビナー成果 報告・報告書作成	

大館北秋田地域林業成長産業化協議会
森林認証材サプライチェーン構築WG 第2回WG

次 第

日 時：令和5年3月20日（月）13：30～15：00

会 場：大館市北地区コミュニティセンター 本館 会議室

1 開 会

2 WG新規参加メンバー紹介

3 協議案件

(1) 今年度の取組状況について ※事務局説明

(2) 来年度の取組内容について ※事務局説明

(3) 意見交換 ※ファシリテーター 森林資源バイオエコノミー推進機構(株)

(4) 情報提供 ※SGSジャパン株式会社

4 その他

5 閉 会

森林認証材サプライチェーン構築WG

第2回WG 配布資料

大館市北地区コミュニティセンター 本館 会議室
令和5年3月20日（月）午後1時半～



WGについて

1

WGの名称

森林認証材サプライチェーンWG（ワーキンググループ）

WGの目的

協議会関係者との連携によるマーケットイン型の森林認証材サプライチェーンの構築を目的に、課題整理や取組内容の検討のため

WGの目標

- ・ 本地域における森林認証林の拡大と森林認証材の供給体制の構築
- ・ 秋田県産森林認証材の需要拡大と都市部や地元公共施設等での利用促進

WG参加メンバー

川上

- ・ 大館北秋田森林組合 New!（約2,322ha）※
- ・ (株)石川組（約410ha）
- ・ (有)伊東農園 New!（約175ha）
- ・ 米代東部森林管理署（約101,000ha）
- ・ 鹿角市（約1,164ha）
- ・ 小坂町（約117ha）
- ・ 大館市（約2,295ha : SGEC-FM）

川中・川下・その他

- ・ (株)沓澤製材所（SGEC-CoC）
- ・ 藤島木材工業(株)・藤島林産(株)（SGEC/FSC-CoC）
- ・ K S ウッドソリューション(株)
- ・ 物林(株)（SGEC/FSC-CoC）
- ・ (株)恒谷汲川建築設計事務所
- ・ 東光コンピュータ・サービス(株)

※事務局調べ（大館市／森林経営計画認定面積）

大館市有林における森林認証 (SGEC-FM) の取得

- 認証日** 令和5年1月11日
- 認証面積** 2,295.61ha(大館市有林)
- 認証種類** FM(Forest Management)認証
- 認証機関** (公財)日本適合性認定協会(JAB)
- 審査機関** SGSジャパン株式会社
- 審査日** 第1段階審査：
令和4年10月19日
第2段階審査：
令和4年11月21日～22日



審査登録証

秋田県内で最大級の森林認証面積

秋田県有林：約1,895ha、上小阿仁村有林：1,974ha※2023年3月現在

森林認証材の需要拡大 (林野庁補助事業) の実施状況

●森林認証材の需要拡大に関するアンケート

- <対象者> 木材利用関係事業者
※県内林業・木材産業関係事業者、協議会会員は除く。
- <期間> 令和5年1月24日(火) から 2月10日(金) 午後5時まで
- <回答数> 28者
- <結果等> 分析依頼先：森林資源バイオエコノミー推進機構(株) (別紙レポートにて説明)

●WOOD CHANGE! ODATE ウェビナーシリーズ (第17回)

- <主催> 大館市
- <協力> 大館北秋田地域林業成長産業化協議会
- <日時> 令和5年2月10日(金) 午後1時半～2時半
- <会場> Zoomウェビナー配信
- <テーマ> 森林認証材の利用拡大に向けて
～SGEC認証材の商品化・プロジェクト認証の実例～
- <講師> 一般社団法人緑の循環認証会議 (SGEC/PEFCジャパン)
事務局長 梶谷 辰哉 氏、国際部長 チェン 加賀子 氏



●事業者ヒアリング (東京都)

- <日程> 令和5年2月14日(火) から2月17日(金) まで
- <訪問先> 1日目(2月14日)：(一社)緑の循環認証会議、林野庁国有林野部経営企画課、住友林業(株)
2日目(2月15日)：大建工業(株)、三菱地所レジデンス(株)、(一社)日本ウッドデザイン協会、
(一社)日本森林技術協会、(株)INPEX
3日目(2月16日)：(株)乃村工藝社、(株)キーテック、(株)物林
4日目(2月17日)：住友林業クレスト(株)、(株)良品計画 (MUJI.com武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス)
- <出張者> 大館市産業部林政課 主任 加賀谷 洋昌、主任主事 千葉 泰生
鹿角市産業部農地林務課 主幹兼班長 関 尚人
- <結果等> ・当地域の森林認証材の需要拡大に向けた取り組みに関心を持っていただいた
・一部の企業より認証材製品に関する具体的なオーダーあり

森林認証材の需要拡大（林野庁補助事業）の実施状況

●事業者ヒアリング（秋田県秋田市）

<日程> 令和5年3月1日（水）

<訪問先> 秋田プライウッド㈱（向浜工場）

<出張者> 物林㈱資材グループ長 田口 慎二

大館市産業部林政課 主任 加賀谷 洋昌、主任主事 千葉 泰生

<結果等> ・協議会でのグループ認証取得に関心を持っていただいた

・FSC-CoC取得済み、SGEC-CoCについても検討したい



●先進地視察（宮城県登米市・石巻市）

<日程> 令和5年3月13日（月） から 3月14日（火）まで

<訪問先> 1日目（3月13日）：登米市産業経済部農林振興課

2日目（3月14日）：登米町森林組合、石巻合板工業㈱

<出張者> (有)伊東農園 伊東 裕祐

(株)石川組 代表取締役副社長 石川 裕太郎

藤島木材工業㈱ 取締役 藤島 新 ※2日目途中まで参加

物林㈱ 資材グループ長 田口 慎二

物林㈱ 盛岡営業室 吉田 誠也 ※2日目から参加

東光コンピュータ・サービス㈱ 部長 戸田 宏幸

小坂町農業委員会事務局 事務局長補佐 相馬 一之

大館市産業部林政課 主任 加賀谷 洋昌、主任主事 千葉 泰生

<結果等> ・FSC認証材のサプライチェーン構築、ICT林業等の好事例を学んだ



●事業者ヒアリング（宮城県仙台市）

<日程> 令和5年3月15日（水）

<訪問先> (株)乃村工藝社東北支店、(有)シェルーージュ、宮城県水産林政部林業振興課

<出張者> 大館市産業部林政課 主任 加賀谷 洋昌、主任主事 千葉 泰生

<結果等> ・認証材（木材）利用によるコストアップ分の付加価値化について供給側も検討してほしい

・宮城県方針として「森林認証を核とした地域振興の推進」を掲げ、各種支援を行っている

(2) 来年度の取組内容について：WGにおける取組内容

森林認証材の拡大に向けた動き

①協議会においてSGEC-FM森林認証グループ認証取得を予定

・大館市有林（約2,295ha）、小坂町有林（約117ha）、(株)石川組社有林（約410ha）で令和5年度にSGEC-FM森林認証グループ認証取得を計画

②鹿角市においてSGEC-FM森林認証を予定

・鹿角市有林（約1,164ha）で令和5年度にSGEC-FM森林認証取得を計画

③国有林（米代東部森林管理署/10.1万ha）へ森林認証取得を要望

・令和4年度秋田県国有林野等所在市町村長有志協議会（10月18日）において、大館市より国有林に対し、森林認証の取得を要望

（東北森林管理局回答※抜粋）

・国有林においては、地域において認証材の流通拡大を図る方針があり、取り組むことが不可欠である場合等に限り、地域の要請を踏まえ、地域の民有林と連携して認証を取得している。

・静岡県浜松市の認証取得事例（天竜森林管理署）を確認いただきたい。

・令和5年度も協議会自治体会員（大館市・鹿角市・小坂町）による要望を検討中

・浜松市事例は平成30年度に先進地視察実施、令和3年度にグループ認証に関する費用負担等調査済み。



R4年度市町村長有志協議会
（秋田市／イヤタカ）

(2) 来年度の取組内容について：森林認証 (SGEC-FM) グループ認証

森林認証 (SGEC-FM) グループ認証経費※調整中

No.	区分	会員名	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	5年間計
1	市町村	大館市	1,582,399	651,272	651,272	651,272	651,272	4,187,487
2	市町村	小坂町	114,784	58,297	58,297	58,297	58,297	347,971
3	一般会員	(株)石川組	144,817	70,431	70,431	70,431	70,431	426,542
計	-	-	1,842,000	780,000	780,000	780,000	780,000	4,962,000

※初年度 (R5) のみ初回審査費用+コンサル費用、以降は定期審査費用。

令和5年度グループ認証初回審査費用 内訳

No.	件名	内容	見積額 (円)	予算計上額 (円,千円未満切上)	備考
1	審査費用	SGEC-FMグループ認証取得審査	835,006	836,000	SGSジャパン(株)
2	コンサル費用	SGEC-FMグループ認証取得支援	945,505	946,000	グリーン航業(株)
3	基本額	事務経費 (印刷代、通信運搬費等)	60,000	60,000	1会員×20,000円
森林認証経費 (No.1、2)			1,780,511	1,782,000	
計 (No.1~3)			1,840,511	1,842,000	

令和5年度グループ認証初回審査費用 費用負担内訳

No.	区分	会員名	①行政負担 (円)	②面積割負担 (円)	基本額 (円)	負担計 (円)
1	市町村	大館市	833,459	728,939	20,000	1,582,399
2	市町村	小坂町	57,541	37,244	20,000	114,784
3	一般会員	(株)石川組	0	124,817	20,000	144,817
計	-	-	891,000	891,000	60,000	1,842,000

※①行政負担：市町村毎の人口割合により算出、②会員毎の認証森林面積割合により算出

(2) 来年度の取組内容について：R5年度デジタル林業戦略拠点構築推進事業 提案概要

＜提案のポイント＞
 ○林業成長産業化に向けた川上対策として、市町村主体で取り組む林地台帳制度や森林経営管理制度等が創設されたほか、令和6年度からは森林環境税の徴収が開始されるなど、市町村の役割は年々重要度を増しており、その内容も徐々に高度化して現在に至っています。
 ○地域の林業・木材産業の成長産業化、地方創生につなげていくため、市町村単位での「デジタル林業」の実践・定着を進め、周辺地域のモデルとなる先行事例を創出するとともに、市町村・林業事業者目線での知見・ノウハウ等の普及化に努めることで横展開を図ります。

資源管理 / 実証内容

【基幹実用実証テーマ】※●…R5年度実施、○…R6年度以降実施 (他テーマも同じ)。

- 航空レーザ測量成果活用によるデジタル森林ゾーニング
- 森林経営管理制度のデジタル運用化

●航空レーザ成果を用いて主伐・再造林等を推進する区域のゾーニングや路網整備計画を策定するとともに、デジタル技術の活用によるゾーニング等の普及に資するマニュアル等を作成します。

○森林経営管理制度における意欲と能力のある林業経営者の企画提案書作成を支援するため、地上レーザの3Dデータの活用による制度運用を実践します。※
 ※実証1年目については大館市単独事業として実施し、鹿角市及び小坂町へ実証結果の共有を図る。



【基幹未実用実証テーマ】

- 航空レーザ測量成果活用型QGISプラグインの構築及び実装化

●航空レーザ測量成果について林業事業者が扱いやすい形式での利用形態の整備及び運用方法を確立するため、森林情報基盤を「QGIS」で構築します。



⇒施業提案や見積作成の効率化・精度向上を図るため素材生産対象区域の出材の量や材種を予測するQGISプラグイン等を構築。

生産管理 / 実証内容

【基幹実用実証テーマ】

- デジタル森林認証材SC構築による安定供給化と生産管理効率化

●森林認証材の安定供給化に向け、認証取得者等との協定等の締結により、実施体制の構築を図るとともに、トレーサビリティ確保や事務効率化に資するSCMプラットフォームを構築します。

⇒森林認証林 (大館市) 実証フィールド約30haを設定するとともに、他の実証メニューの実証フィールドとして活用予定。
 ⇒プラットフォーム運用後はICT生産管理 (ICTハーベスタ・検知アプリ等) との連動化実証に移行予定。



【基幹未実用実証テーマ】

- 「OWL-ARナビゲーションシステム」生産管理実証
- 木造版ECI (Early Contractor Involvement) システム構築

●ARを用いて、スマートグラス越しに立木情報の表示及び伐採対象木までのナビゲーション実証を行うとともに、ハーベスタ等での伐採造材作業連携実証を行います。



○川上 (林業事業者等) に至るトレーサビリティの確立と地方一都市部間での運用に向けて、SaaSシステムへの将来的な参画を見据えたトライアル等を行い、効果検証と課題整理を行います。

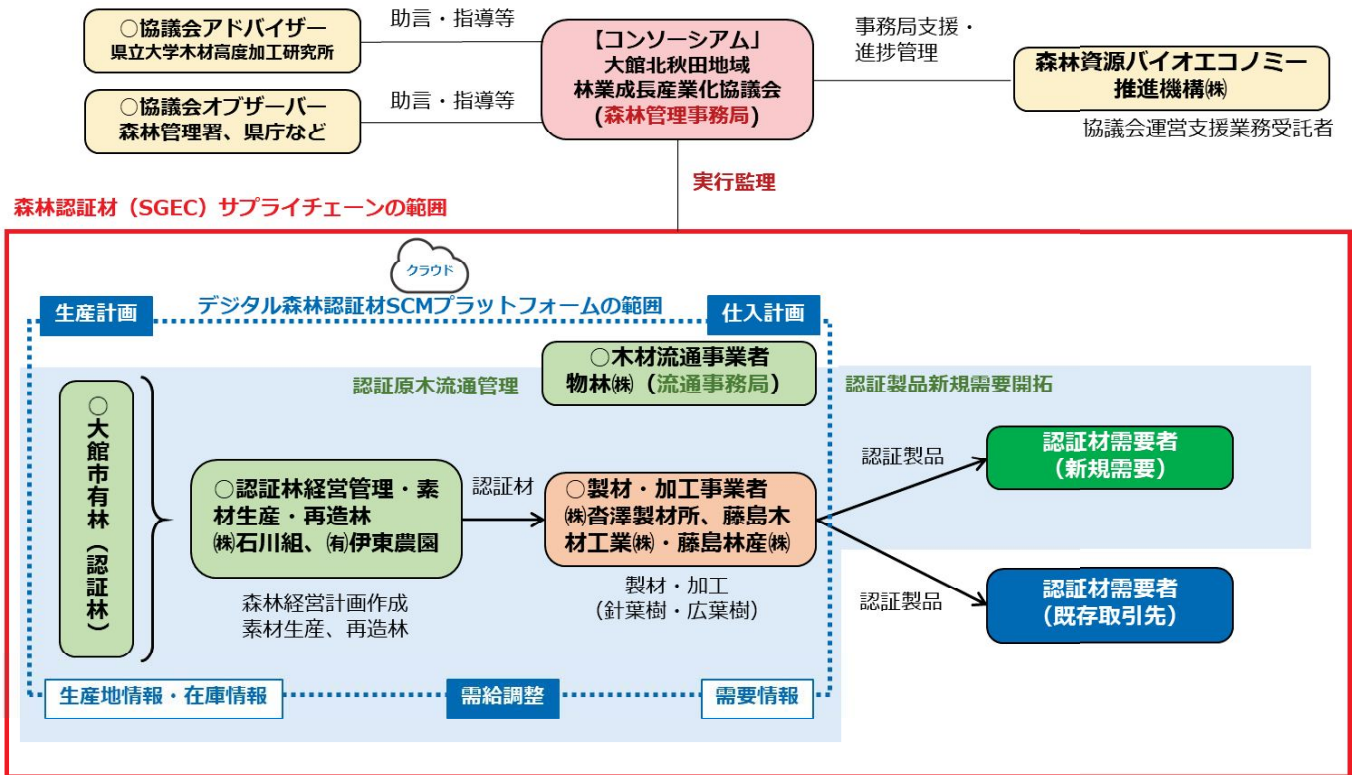
提案事業

【造林】林業木材産業における省力・低コスト化実証、【通信】デジタル技術活用による違法伐採対策と再造林等モニタリング※、【森林サービス】N/A
 ※実証1年目については大館市単独事業として実施し、鹿角市及び小坂町へ実証結果の共有を図る。

▶▶▶▶ コンソーシアムにおけるロードマップ進捗管理内容と事業終了後の地域の将来像 ▶▶▶▶▶



実証テーマ<基幹事業/生産管理/基幹実用(1/2)>概算事業費13,200千円(補助額6,600千円)
デジタル森林認証材サプライチェーン構築による安定供給化と生産管理効率化



図：デジタル森林認証材SCMプラットフォームのイメージ

MEMO

秋田県 大館市 電子申請・届出サービス

様式管理

プレビュー 【2/10（金）迄】森林認証材の需要拡大に関するアンケート（大館北秋田地域林業成長産業化協議会）

【2/10（金）迄】森林認証材の需要拡大に関するアンケート（大館北秋田地域林業成長産業化協議会）

問 1 - 1） 回答者情報（林業木材産業におけるポジションおよび職種） 必須

林業木材産業におけるご自身のポジション（川上・川中・川下）を選択いただくとともに職種（例：素材生産業者、製材業、建築設計事務所など）を記載願います

 川上分野（主に森林整備・素材生産など） 川中分野（主に木材加工・木材流通など） 川下分野（主に木材利用） その他

選択解除

問 1 - 2） 回答者情報（主な営業エリアについて） 必須

主な営業エリアを選択願います

 北海道 東北 関東 中部 近畿 中国・四国 九州 その他

選択解除

問 2 - 1） 森林認証の取得状況について教えてください 必須

取得済みの方は認証機関（SGEC、PEFC、FSC）について記載願います

 取得済み（FM認証）

取得済み (CoC認証)

取得済み (FM認証・CoC認証両方)

取得していない

わからない

選択解除

問2-2) 問2-1で「取得していない」と回答いただいた方

以下の該当する項目を選択願います

- 今後取得することを検討している
- 興味はあるが具体の検討はしていない
- 今後も取得するつもりはない
- その他

選択解除

問3-1) 森林認証材の供給・調達について 必須

以下の該当する項目を選択願います

- 供給・調達している (したことがある)
- 供給・調達していない (したことがない)
- 森林認証を取得していない
- 分からない

選択解除

問3-2) 問3-1で「供給・調達している (したことがある)」と回答いただいた方

該当する項目を最大3つまで選択願います

- 注文や問合せを受けた場合のみ供給・調達している
- 常時供給・調達している/在庫している
- 会社として森林認証制度を推奨している
- 非森林認証材と比べ優位性があるので供給・調達している
- 以前は優位性があり供給・調達していたが、優位性がなくなり今は供給・調達していない
- 調達を中止した
- その他

問3-3) 問3-1で「供給・調達していない(したことがない)」と回答いただいた方

該当する項目を最大3つまで選択願います

- そもそも検討したことがない
- 森林認証材は検討対象ではあるが、注文や問合せを受けたことがない
- 非森林認証材と比べ優位性がない
- 森林認証材製品の情報・流通網がない
- その他

問4) 森林認証材の産地について

森林認証材の産地として魅力的に思える地域、または定常的に調達する地域はありますか？また、それはなぜですか？（理由例：ブランド、価格、納期、品質、流通の推奨、懇意な業者の存在、理由不明など）

なお、特定の地域がない場合は選択・記載不要です。

- 1 産地名/理由等

- 2 産地名/理由等

- 3 産地名/理由等

問5) 森林認証材の供給・調達において最も重要な点 必須

該当する項目を最大3つまで選択願います

- ブランド
- 価格
- 納期
- 供給安定性
- 品質
- 合法性（合法伐採・合法労働など）
- 持続可能性（再造林・炭素固定など）
- 理由不明・調達していない
- その他

問6) 森林認証材の注文や問合せについて 必須

該当項目を選択願います

- 秋田スギ森林認証材の注文や問合せを受けた、もしくはしたことがある
- 国産の森林認証材という指名で注文や問い合わせを受けた、もしくはしたことがある
- 注文や問合せを受けていない、もしくはしたことがない

- 注文や問合せを受けた、もしくはしたことがある
- その他

選択解除

問7) 森林認証材のメリットを感じていますか? 必須

- 認証があると価格面の不利があっても売りやすい
- 認証があると国産材も外国産も関係なく訴求しやすい
- 認証についてユーザーの認知度はあがっている
- メリットをあまり感じない。考えたことがない
- その他

選択解除

問8-1) 国産の森林認証材の需要【物件について】 必須

注文や問合せが多いものを最大3つまで選択して下さい

- 公共施設
- 商業施設
- 学校施設
- 保育施設
- 福祉施設
- 一般住宅
- 実績なし
- その他

問8-2) 国産の森林認証材の需要【材料について】 必須

注文や問合せが多いものを最大3つまで選択して下さい

- 構造材
- 下地材
- 内装材
- 外構材
- 土木用材
- 家具・工芸用材
- 実績なし
- その他

問 9) 木材（または森林認証材）調達の意味決定について※木材需要者のみ

木材（または森林認証材）の調達において意思決定に影響を及ぼすのは何ですか？

- 仕入先からの製品情報（樹種、品等、規格）、セールス活動
- 産地からの製品情報（樹種、品等、規格）
- 合法木材の情報（合法木材証明書）
- 産地からのセールス活動
- 業界誌、新聞、ウェブサイト（具体的に記載願います）

- その他

選択解除

問 10) 木材供給・調達に関する情報収集について 必須

森林認証材を問わず木材供給・調達に関する情報収集で不便を感じることはありますか？

- ない
- ある（具体的に記載願います）

選択解除

問 11) 森林認証制度への理解、利用促進について 必須

最終消費者に森林認証制度への理解、森林認証材の利用促進を図るために有効と思われる活動を選択願います（複数可）

- 森林認証に関連するイベントを開催する
- 産地からの認証材製品を展示する
- SGEC制度事務局（SGECを管理している事務局）が広報媒体でPRする
- 認証取得している会社が独自に行う
- 製品を販売する会社が顧客にPRする
- その他

問 12) 当地域（大館市・周辺地域）の森林認証材について 必須

今後、大館市有林や当協会の会員が所有する森林で森林認証（SGEC）の取得を予定しておりますが、当地域（大館市・周辺地域）の森林認証材に興味はありますか？

- 興味があり、詳しく話を聞きたい
- 興味があり、情報提供（メール等）をお願いしたい
- 興味はない
- 分からない
- その他

問 1 3) 最後に当地域に今後求めたいことや期待したいことなどをお聞かせください

入力文字数： 0 / 2000

任意) 連絡先について

問 1 2 で「興味があり、詳しく話を聞きたい」、「興味があり、情報提供（メール等）をお願いしたい」を選択された場合は記載願います

会社・団体名を入力してください。

部署名を入力してください。

氏名を入力してください。

氏 名

氏名（ふりがな）を入力してください。

氏 名

郵便番号（ハイフンなし）を入力してください。

郵便番号

住所検索

住所（都道府県から）を入力してください。

住所

メールアドレスを入力してください。

メールアドレス

電話番号を入力してください。

電話番号

アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございました。

閉じる

【システム操作に関する】お問い合わせコールセンター

TEL : 0120-464-119

(平日 9:00~17:00 年末年始除く)

FAX : 06-6455-3268

電子メール: help-shinsei-akita@s-kantan.com

制度等手続きの内容に関するお問い合わせは、
各課担当者へお願いいたします。



協議会の取組紹介 ～“グリーン成長構想”の推進と “森林認証材の需要拡大”～

大館というところ。



大館北秋田地域
林業成長産業化協議会

秋田県大館市



伝統的工芸品「大館曲げわっぱ」



伝統的工芸品「秋田杉桶樽」

秋田県大館市の概要

1





大館北秋田地域 林業成長産業化協議会

<基本情報>

設立年月日	平成29年10月11日
対象地域	大館市
事務局	大館市（産業部林政課）
事業内容	林業成長産業化の実現に向けた事業の実施
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・林業成長産業化地域創出モデル事業（林野庁/H29～R3） ・「地域内エコシステム」モデル構築事業（林野庁/R3～R4） ・森林認証材の需要拡大事業（林野庁/R4） ・顔の見える木材での快適空間づくり事業（林野庁/R4）

<平成29年度～令和3年度>

<令和4年度～>

35会員

- ・森林組合（1）
- ・素材生産事業者（12）
- ・苗木生産者（2）
- ・製材・加工事業者（8）
- ・木質バイオマス事業者（3）
- ・木材流通事業者（1）
- ・学識経験者（1）
- ・行政機関（7）



76会員

2023年2月現在

- ・森林組合（1）
- ・素材生産事業者（13）
- ・苗木生産者（7）
- ・製材・加工事業者（7）
- ・木質バイオマス事業者（4）
- ・木材流通事業者（2）
- ・学識経験者（1）
- ・行政機関（7）
- ・教育機関（1）
- ・住宅事業者（14）
- ・建築設計関係者（12）
- ・家具・工芸事業者（5）
- ・IT・ICT関連事業者（2）

大館市有林における木材生産

「森林経営及び木材販売に係る協定書」締結（平成30年度）

→協議会と大館市による協定締結：対象森林面積116.76ha

協議会へ大館市有林の一部を
施業フィールドとして提供

川上から川下の事業者の
連携による地元産材の
供給体制を構築



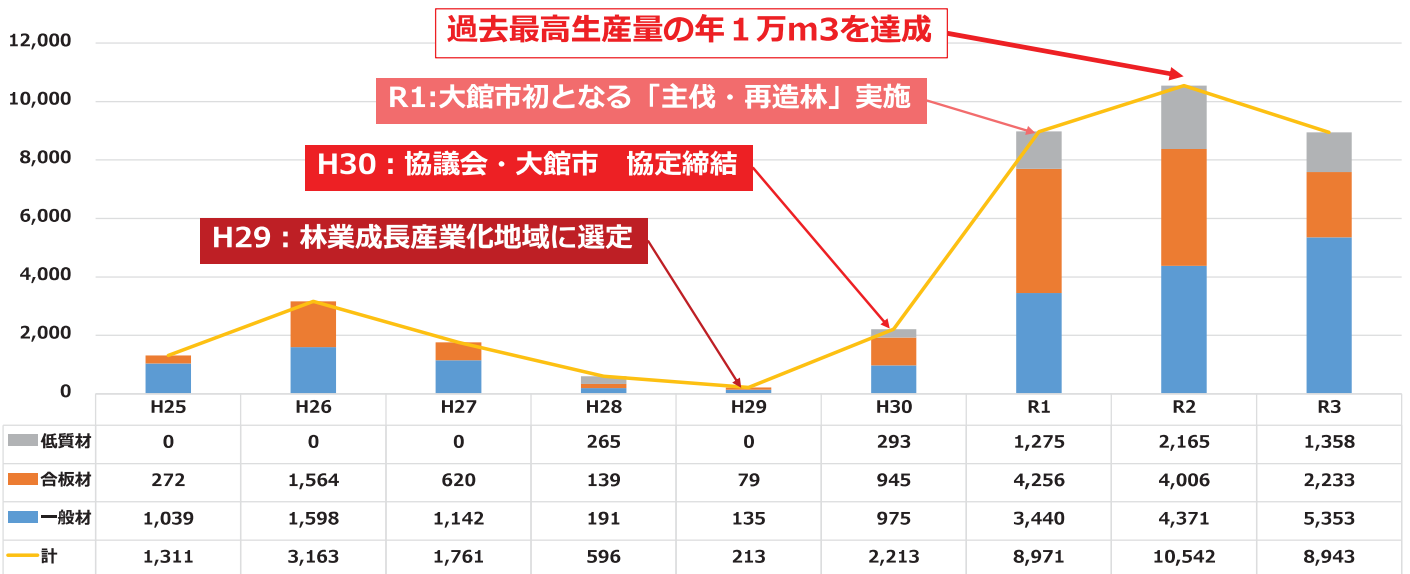
大館市有林での施業状況（一貫作業システム）

大館市有林における木材生産



市有林・国有林の「森林共同施業団地」の設定 ⇒令和5年度より協定範囲拡大予定（大館市全域）

大館市有林における木材生産



注) H25～30まで間伐のみ、R1～は主伐・間伐

■一般材 ■合板材 ■低質材 —計

大館市有林 素材生産量・生産割合の推移

大館市有林における木材販売

6

1m3当たり丸太販売額比較（単位：円）

販売方法	R1	R2	R3
市入札方式	7,135	6,718	8,093
協定方式	8,588	8,164	9,859

市有林材の流通広域化

取組前

種類	主な流通販売先
一般材	大館北秋田森林組合
合板材	秋田プライウッド
低質材	北秋容器

取組後

種類	流通販売先
一般材	大館北秋田森林組合
	沓澤製材所
	遠藤林業
	九島木材
	秋田製材協同組合
	門脇木材
合板材	秋田プライウッド
	キーテック
低質材	北秋容器

<取組ポイント>

- ・地域内で取扱可能な径級は優先的に供給
- ・地域材指定案件に柔軟に対応

大館市有林における木材販売

7

協定方式の実績内訳

協定方式	項目	R1間伐	R1主伐・再造林	R2主伐・再造林	R3間伐	R3主伐・再造林
	事業費(円)	44,938,300	28,349,200	34,115,400	38,415,342	18,950,534
	補助金(円)	14,281,905	6,419,899	7,096,755	21,856,312	2,653,900
	丸太収入(円)	38,872,126	29,851,730	33,642,328	27,264,781	22,394,490
	差引(円)	8,215,731	7,922,429	6,623,683	10,705,751	6,097,856
	取扱量(m3)	4,352.715	3,620.572	4,120.48	2,894.489	2,174.643
	1m3当たり販売額(円)	8,930	8,245	8,164	9,419	10,298
	1m3当たり還元額(円)	1,887	2,188	1,607	3,698	2,804
	面積(ha)	29.91	8.05	11.25	50.61	4.37
1ha当たり還元額(円)	274,681	984,152	588,771	211,534	1,395,390	

再造林を支える苗木生産体制の強化

苗木生産 施設整備

平成29年度：コンテナ苗生産施設（容器5,000個）
 平成30年度：コンテナ苗生産施設（散水装置、培土圧入機、苗抜取機、その他資材）
 令和元年度：コンテナ苗生産施設（散水装置）



育苗施設（ビニールハウス）



散水装置（スプリンクラー）



コンテナ容器

指標	取組前 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	効果 (H28⇒R3)
再造林面積 (ha)	31	81	127	127	117	93	約3.0倍
苗木出荷本数 (千本)	500	850	892	924	1,032	1,264	約2.5倍

大館北秋田地域構想 達成目標進捗管理表※再造林面積…民有林・国有林実施面積

都市部への木材供給

「渋谷区子育てネウボラ」（東京都渋谷区）



3階「coしぶや／子育てひろば」

ハチ公が見つないでくれた“ご縁”による
 渋谷区との交流・連携

渋谷区・大館市防災協定締結
 平成13年1月24日



渋谷駅前

渋谷区木材利用推進方針（令和2年4月～）

＜使用する木材＞

- ア 防災協定締結自治体の木材
- イ 東日本大震災被災自治体の木材
- ウ 多摩産材
- エ 森林認証材



＜供給実績＞

- ・ 3F スギフローリング約227m²
- ・ 7F 床暖房用複合フローリング約56m²

「グリーン成長構想（令和4～13年度）」の推進

構想に掲げる5つの柱と取り組みポイント

1 森林資源の適正な管理・利用に向けた取り組み

- ・ 再造林率を向上させるための仕組みづくり
- ・ 森林集約化や木材生産性向上による安定供給化
- ・ 安定的な木材生産を支えるための路網整備の推進 など



2 「新しい林業・木材産業」に向けた取り組み

- ・ 森林情報の高度利用に向けたレーザ計測等の推進
- ・ スマート林業普及に向けた人材育成とIT産業等との連携
- ・ ICTを活用した木材の生産流通管理の導入 など



3 森林資源の地産地消によるまちづくりへの貢献

- ・ 住宅や非住宅分野での木材利用促進
- ・ 新しい木質部材の活用を提案できる木造設計者育成
- ・ 家具など生活関連分野等での木材利用促進 など



4 地産外商による木材産業の競争力向上

- ・ 都市部自治体・企業との連携体制の構築
- ・ 秋田スギや広葉樹製品の積極的なPR活動
- ・ 「森林認証材製品供給」等による木材需要開拓 など



5 森林・林業・木材産業の新たな価値づくり

- ・ 「AKITASUGIツーリズム」等による観光客需要の拡大
- ・ ワークーション等における森林空間活用
- ・ 広葉樹、特用林産物など地域資源の活用 など



構想表紙

森林認証制度に関するこれまでの取り組み

当地域のこれまで（～令和4年末）

●大館市周辺地域の森林認証の取得状況

<FM認証>

○上小阿仁村有林（約1,974ha）と秋田県有林（大館市／早口県有林約126ha、鹿角市／宮川県有林約189ha）が取得

<CoC認証>

○製材加工・集成材
 (株)沓澤製材所、藤島木材工業(株)・藤島林産(株)、ティンバラム(株)花岡工場
 ○木材流通（原木）
 (有)新林林業、(有)山田造材部

●これまでの活動内容

<平成29年度>

・ 森林認証に関する勉強会（平成30年3月）開催
 ⇒森林認証制度全般についての勉強会を開催。

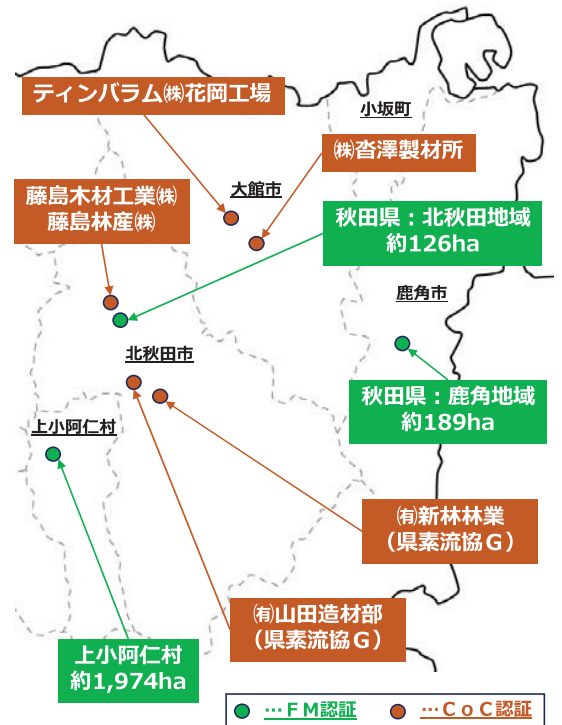
<平成30年度>

・ 先進地視察研修 静岡県浜松市（平成30年11月）
 ⇒FSC認証材の需要拡大に関する取り組みについて視察研修を実施。

<令和2年度>

・ 都市部における木材利用に関するアンケート調査（令和2年9月）
 ⇒都市部企業を対象にアンケートを実施。

大館市周辺地域の森林認証（SGEC）取得状況図

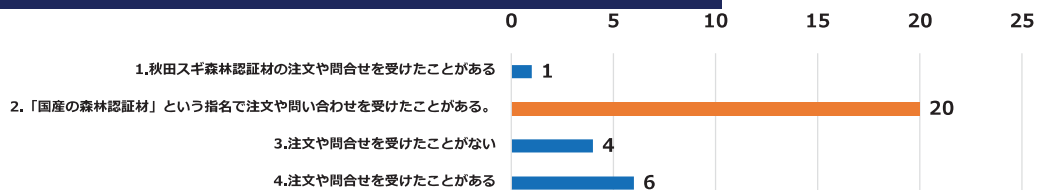


森林認証制度に関するこれまでの取り組み

12

都市部における木材利用に関するアンケート結果（令和2年9月）

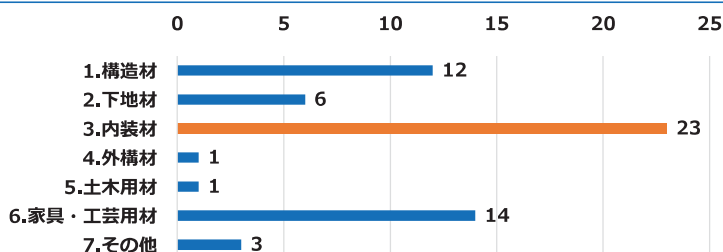
Q、森林認証材の注文や問合せ状況について（n=31）



Q、森林認証材のメリットを感じているか（n=31）



Q、森林認証材の需要（材料）について（n=31／注文や問合せが多いものを3つ選択）



森林認証制度に関するこれまでの取り組み

13

都市部における木材利用に関するアンケート分析結果：森林資源バイオエコノミー推進機構(株)

●森林認証材の注文や問合せ状況について／森林認証材のメリットを感じているか について

<分析内容>

- ・ユーザー層からは「国産の森林認証材」という指名買いが多く発生していることがわかる。
- ・一方で「メリットをあまり感じない、考えたことがない」が多数であり、ユーザーと供給側の温度差があることがわかる。

<所見>

- ・顧客側の認知があがり、指名買いも出てきている中、供給側の意識が低いというのが実態であれば、自分たちだけがこれを改善することで差別化要因となりうる。

●参考（その他所見）

<コモディティであることの認識>

- ・顧客はスギが産地により品質に差はあることを認めるものの、それを意思決定の最重要事項とはしていない。スギはほぼ全国から大消費地に向けて供給されている。
- ・スギは代替産地が多数あるコモディティであることを認識した販売活動をすべきでは、差別化のヒントは回答で重視された供給安定性、情報の使い勝手、取引の快適さ、といった価格・品質以外のところにもありえる。

<秋田スギブランド>

- ・過去の「天然秋田杉」ブランドは天然スギの出荷が止まったことで実質は中断されるべきであるが、頭の中には残っている顧客もある。
- ・そのイメージはそのまま活用しつつ、地道なマーケティング活動（相手が欲しい情報を使いやすい形態で提供）等を通して人工林由来の「秋田スギ」の取引は快適である、情報を得やすいという評判を得ることができるなら、他産地から一歩抜きん出ることでも可能ではないか。

森林認証材の需要拡大に向けた取り組み

協議会「森林認証材サプライチェーン構築WG」の設置（令和4年8月）

●「森林認証材サプライチェーン構築WG」設置の目的と目標

<目的>

協議会関係者との連携によるマーケットイン型の森林認証材サプライチェーンの構築を目的に、課題整理や取組内容の検討のため。

<目標>

- ・ 本地域における森林認証材の拡大と森林認証材の供給体制の構築
- ・ 秋田県産森林認証材の需要拡大と都市部や地元公共施設等での利用促進

●森林認証材サプライチェーン構築WGメンバー（令和5年3月現在）

川上

- ・ 大館北秋田森林組合（約2,322ha）
- ・ (有)伊東農園（約175ha）
- ・ (株)石川組（約410ha）
- ・ 米代東部森林管理署（約101,000ha）
- ・ 鹿角市（約1,164ha）
- ・ 小坂町（約117ha）
- ・ 大館市（約2,295ha：SGEC-FM）

川中・川下・その他

- ・ (株)沓澤製材所（SGEC-CoC）
- ・ 藤島木材工業(株)・藤島林産(株)（SGEC-CoC、FSC-CoC）
- ・ K Sウッドソリューション(株)
- ・ 物林(株)（SGEC-CoC、FSC-CoC）
- ・ (株)恒谷汲川建築設計事務所
- ・ 東光コンピュータ・サービス(株)

森林認証材の需要拡大に向けた取り組み

大館市有林における森林認証（SGEC-FM）の取得

認証日 令和5年1月11日

認証面積 2,295.61ha（大館市有林）

認証種類 FM（Forest Management）認証

認証機関 公益財団法人日本適合性認定協会（JAB）

審査機関 SGSジャパン株式会社

審査日 第1段階審査：令和4年10月19日
第2段階審査：令和4年11月21日～22日

秋田県内で最大級の森林認証面積

秋田県有林：約1,895ha、上小阿仁村有林：1,974ha※2023年2月現在



審査登録証

森林認証材の需要拡大に向けた取り組み

16

協議会（森林認証材SC構築WG）における森林認証材の拡大に向けた動き

●SGEC-FM森林認証取得に向けた動き

①協議会においてSGEC-FM森林認証グループ認証取得を予定

- ・大館市有林（約2,295ha）、小坂町有林（約117ha）、(株)石川組社有林（約410ha）で令和5年度にSGEC-FM森林認証グループ認証取得を計画

②鹿角市においてSGEC-FM森林認証を予定

- ・鹿角市有林（約1,164ha）で令和5年度にSGEC-FM森林認証取得を計画

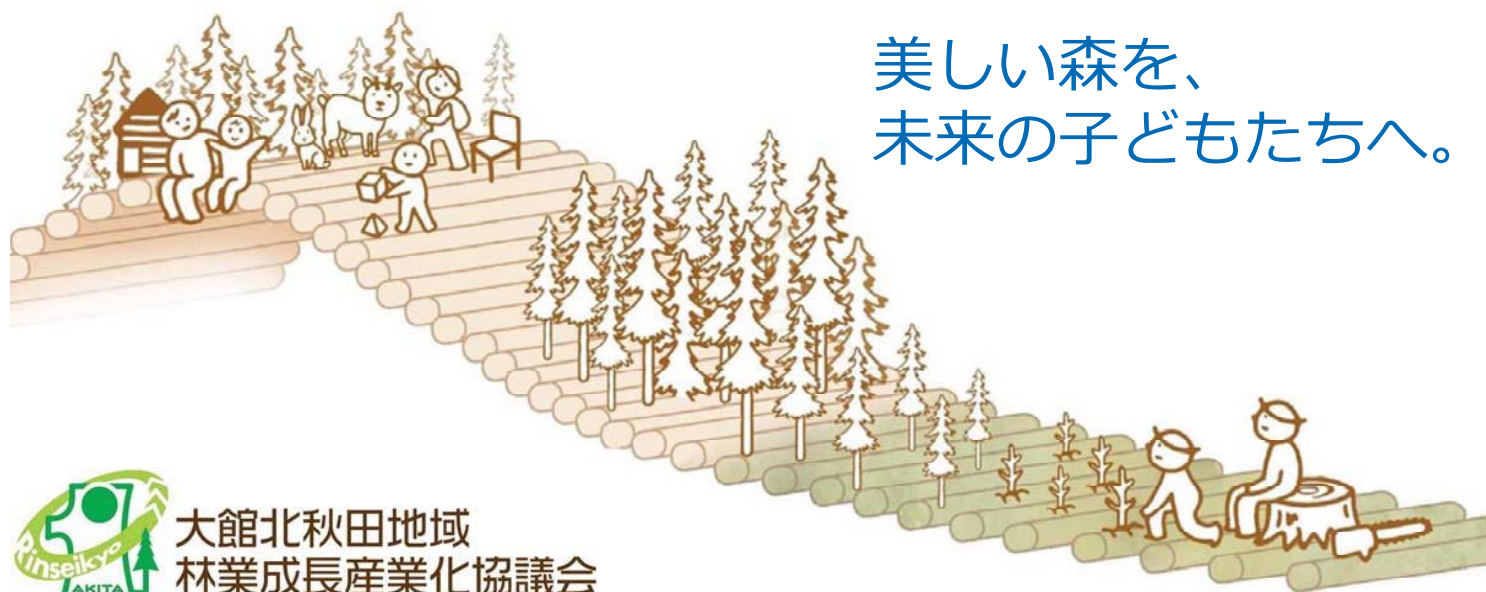
③国有林（米代東部森林管理署/10.1万ha）へ森林認証取得を要望

- ・令和4年度秋田県国有林野等所在市町村長有志協議会（10月18日）において、大館市より国有林に対し、森林認証の取得を要望

（国回答※抜粋）⇒国有林においては、地域において認証材の流通拡大を図る方針があり、こうした方針と協調して取り組むことが不可欠である場合等に限り、地域の要請を踏まえ、地域の民有林と連携して認証を取得している。



市町村長有志協議会
（秋田市/イヤタカ）



美しい森を、
未来の子どもたちへ。



大館北秋田地域
林業成長産業化協議会



おおだてし
大館市

匠と歴史を傳承し
誇りと宝を力に変えていく
「未来創造都市」

【お問合せ先】

大館北秋田地域林業成長産業化協議会事務局
大館市産業部林政課
TEL: 0186-43-7076 担当: 千葉 泰生
E-mail: taisai-tiba@city.odate.lg.jp (個人)
mokuzaizai@city.odate.lg.jp (事務局)

森林認証材の利用拡大に向けて

～SGEC 認証材の商品化・プロジェクト認証の実例～



2023年2月10日

SGEC/PEFC ジャパン チェン加賀子

内容

- 1 森林認証について SGECとは？
- 2 SGEC 認証材・プロジェクト認証の事例紹介
- 3 プロジェクト認証のメリット
- 4 プロジェクト認証の手順

1 森林認証について SGECとは？



1 森林認証について SGECとは？



1 森林認証について SGECとは？



1 森林認証について SGECとは？

オリンピック・パラリンピック・大阪関西万博での調達コード

持続可能性に配慮した調達コード

持続可能性に配慮した木材の調達基準

- 1. 本調達基準の対象は以下の木材とする。
- ア 建設材料として使用する製材、集成材、直交集成材、合板、単板積層材、フローリング
- イ 建設に用いられるコンクリート型枠合板

3. FSC注1、PEFC注2、SGEC注3による認証材については、上記2の①～⑤への適合度が高いものとして原則認める注4。



- ③ 伐採に当たって、生態系が保全され、荒廃地や天然林を含む環境上重要な地域が適切に保全されており、また、森林の農地等への転換に由来するものでないこと
- ④ 森林の利用に当たって、先住民や地域住民の権利が尊重され、事前の十分な情報提供に基づく、自由意思による合意形成が図られていること
- ⑤ 伐採に従事する労働者の労働安全・衛生対策が適切に取られていること



2 S G E C 認証材・プロジェクト認証の事例紹介

S G E C 認証材指定の発注

木造住宅に関する補助金制度

木育教材

9

S G E C 認証材指定の発注

新国立競技場



新国立競技場のひさし部分に全国からの集められたSGEC認証材を使用

10

SGEC 認証材指定の発注

新国立競技場



5階の外周ベンチは九州全域のSGEC木材が使用

11

SGEC 認証材指定の発注

東京五輪・選手村でのゲート



12

SGEC 認証材指定の発注

有明アリーナ

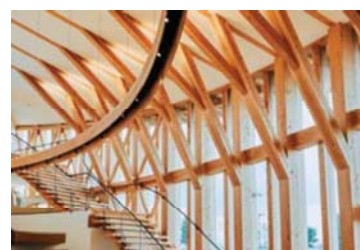


オリンピック・パラリンピック会場で4番目に多く、木材が使用されている会場
原則認証材を使用

13

SGEC 認証材指定の発注

長野県 OYAKI FARM(おやきファーム)



木造2階建て
根羽村産 SGEC認証材スギ・ヒノキが構造材に使用
オープンから2ヶ月で8万人が来店
長野の新たな観光名所

14

SGEC認証材指定の発注

長野県武道館



長野県産材
SGEC認証材のカラマツを主に使用
フローリングに SGEC認証のスギが使用

15

SGEC認証材指定の発注

<その他>

静岡県浜松磐田信用金庫

栃木県鹿沼市新庁舎

長野県軽井沢町で戸建て住宅

公共施設への机やロッカーなどの家具

マンションの共用エントランス

マンション購入者へのノベルティグッズ

木製スマホスタンド

ロードバイクスタンド 西武鉄道駅に設置予定

16

SGEC認証材指定の発注

レガシー材



栃木県鹿沼市
2022年国体のカウントダウンボード、ベンチなど
国体終了後も各種イベントの際に利用予定
返却された木材を、なるべくそのまま活用するため、加工を少なくするように工夫

17

SGEC認証材

ひのきアロマオイル



埼玉県飯能市のSGEC認証林
ヒノキからアロマオイルを抽出し
SGEC認証品として販売

18

SGEC認証材

アパレル



長野県根羽村
SGEC認証材の杉から木質セルロースを布に加工し、アパレル制作

19

木造住宅に関する補助金制度

戸建住宅でSGEC認証材使用

補助金活用

銀行タイアップ

住宅ローンの金利優遇

20

木造住宅に関する補助金制度

北海道紋別市



認証材活用住宅助成の対象要件について

この事業により助成金を受けることができるのは、次の要件を全て満たした方となります。

- ・市内に居住している方、又は市内に定住目的で移住する予定のある方の住宅であること。
- ・新築、増築、及び改築する住宅であること。
- ・SGEC認証材を5m³以上使用すること。
- ・申請される方が市税その他、市に対する債務の履行を遅滞していないこと。
- ・建設業の許可を受けたSGEC認定事業者（COC認証）である工務店等が建設すること。
- ・その他「紋別市認証材活用住宅助成事業補助金交付要綱」に定めた要綱を満たすこと。

21

木造住宅に関する補助金制度

北海道紋別市



認証材活用住宅の助成金額について

この事業による助成額は、SGEC森林認証材1m³あたり5万円、内装材等SGEC森林認証製品1m²あたり5千円です。ただしその両方を合計した額の上限は100万円となります。

～事例～

- ・カラマツの構造材（柱・梁等）を15m³使うと、75万円。
- ・トドマツの内装材（羽目板・フローア等）を100m²使うと、50万円。
- ・合計で125万円となりますが、100万円を超えるので助成額は100万円となります。

22

木造住宅に関する補助金制度

宮崎県宮崎市

宮崎市産材を使用した新築木造住宅に補助金を交付します

- 1 事業名 宮崎市産材需要拡大推進事業
- 2 目的 宮崎市の森林から産出された木材（市産材）の需要拡大を図ることを目的として、市産材を使用して木造住宅を新築する場合に、建築主に対して建築費の一部を補助します。

3 概要

【要件】

- ・ 市民が市内に自ら居住するために住宅を新築すること。
- ・ 市産材を構造材に6割以上使用し、延べ床面積70㎡以上の新築住宅。
- ・ 市内に本店及び支店、営業所を有する施工業者が施工したもの。
- ・ 建築主及び施工業者が暴力団関係者でないこと。
- ・ 市税等の滞納がないこと。

※ 市産材とは、市内の認証森林において生産され、SGEC（エスジェック）認証材として証明を受けたもの。

「SGEC 認証材」とは、適切かつ持続的に管理された森林から伐採、産出された木材であることを、第三者機関であるSGECが認証した木材。

※ 構造材とは、通柱、管柱、間柱、土台、大引、梁、桁、母屋をいう。

【補助額】

- ・ 市産材を使った住宅の延べ床面積1㎡当たり3,000円、1戸当たり40万円を限度として、20戸の建築主に対して補助を行う。（多いときは抽選）

23

木造住宅に関する補助金制度

滋賀県高島市

▼補助金の交付額

区 分	補助金の額	
	製材品1㎡あたり	限度額
<u>森林認証材のみを使用した建築物</u>	25,000円	30㎡まで <u>75万円</u>
住宅類	20,000円	30㎡まで 60万円
倉庫類	15,000円	30㎡まで 45万円

24

木造住宅に関する補助金制度

埼玉県飯能市

〈概要〉

西川材を使用して住宅等を建築・リフォームされる方又は木塀等を設置される方に補助金を交付します。

新築は最大50万円、リフォーム・木塀等の設置は最大20万円を助成します。

※飯能市森林認証材を使用した場合、その使用量に応じ、補助金の額に30%加算します。

25

木造住宅に関する補助金制度

栃木県鹿沼市

鹿沼産材及び鹿沼産森林認証材を利用した方に 商品券をプレゼントします！

商品券は鹿沼商工会議所が発行する「鹿沼市共通商品券」または粟野商工会が発行する「粟野商品券」になります。

区分		条件 (鹿沼産木材 の使用量)	金額		
			定額分	加算分	合計
市内で建てる	新築	住宅	最大 20 万円	鹿沼産森林認証材の使用量に応じて、 最大 30 万円	最大 50万円
		店舗等			
	増改築・リフォーム等	2㎡以上	最大 20 万円		
市外で建てる	新築・増改築・リフォーム等	5㎡以上	10 万円	なし	10 万円

※その他条件等については下記までお問い合わせください。

26

木造住宅に関する補助金制度

栃木県鹿沼市 鹿沼相互信用金庫

**鹿沼産森林認証材を使用すると
住宅金利が通常よりも低くなる優遇が受けられます！**

鹿沼相互信用金庫の住宅ローンによって認証材を使用した場合

0.1%（固定金利ローンに限る）

ローン申込時に鹿沼市森林認証協議会が発行する
鹿沼材使用住宅証明書を添付してください。
詳しくは各店舗にお問い合わせください。

27

木育教材



宮崎県で定期的に行われる読み聞かせ・木育・植樹3点セットのイベント
学校の木工育授業でSGEC認証品を使用

28

木育教材



長野県根羽村の事例
SGEC認証材で作られたカヌーで川遊びで木育もできる
サウナや木工遊具を活用

29

木育教材



積み木や木工品などもSGEC認証材
森の大切さを学ぶ授業などで活用

30

木育教材

教科書

参考図書

SDGs教材

夏休み宿題課題

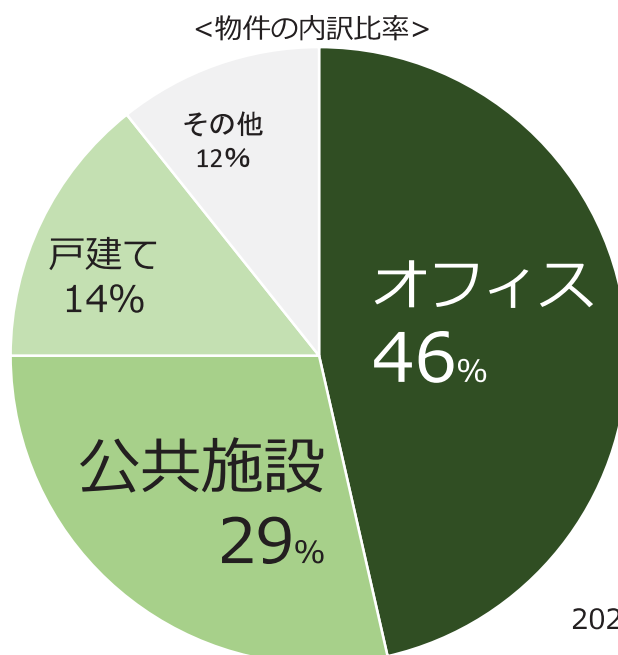


31

2 S G E C 認証材・プロジェクト認証の事例紹介

✓プロジェクト認証21件

✓現在6件着工中



2023年2月10日現在

32

2 SGEC認証材・プロジェクト認証の事例紹介

野村不動産株式会社



「世界の森林保護に参画できる、持続可能な森林保護を活かしたオフィスビル」
エイチオーワンシリーズ
<プロジェクト認証を取得理由>
企業が環境推進強化に取組みを投資家、テナントに説明することが出来るツールとして

33

2 SGEC認証材・プロジェクト認証の事例紹介

有明テニスの森公園クラブハウス・インドアテニスコート 東京都のスポーツ施設では初のSGEC/PEFCプロジェクト認証



34

2 S G E C 認証材・プロジェクト認証の事例紹介

南富良野 南ふらの道の駅 複合型施設

2022年4月オープン

町有林認証材を活用の機会とした

モンベルからの木材利用の要望

SDGsの取り組みになる

全体認証

南富良野町産

カラマツ、トドマツ

南富良野町が管理主体

プロジェクトメンバーは北菱、サンエービルド、永井特定建設工事共同企業体



35

2 S G E C 認証材・プロジェクト認証の事例紹介

南富良野

道の駅ラベンダー園ウッドチップ園路SGECプロジェクト

部分認証

トドマツ

南富良野町産のトドマツを加工

南富良野町が管理主体

プロジェクトメンバーは吉岡建設



36

2 S G E C 認証材・プロジェクト認証の事例紹介

北海道当麻町



当麻町産の木材を使う新築住宅に最大250万円を補助。SDGs達成への貢献となる森林認証を受けた住宅が建てられます！

- 対象者／当麻町内に戸建て住宅を新築し、当該住宅に入居する方。
- 対象要件／当麻町内に新築される戸建専用住宅。
(住宅と同時に施工される車庫、物置も含むことが可能)
当麻町内に新築される店舗兼用住宅のうち、住宅の用途部分。
- 補助金額／250万円を限度とし、建設に要する町産材の販売額。各部位の使用量に応じた額とします。

当麻町森林組合が町産材活用住宅にプロジェクト認証を取得し町産材プロジェクト認証事業として持続可能な循環型林業の推進を図っている

37

2 S G E C 認証材・プロジェクト認証の事例紹介

宮城県仙台市 高惣木工ビル



東北初の「SGEC/PEFC-CoCプロジェクト認証」取得
日本初の製材による純木造7階建てプロジェクト認証
木材利用優良施設コンクールで「農林水産大臣賞」を受賞

38

2 S G E C 認証材・プロジェクト認証の事例紹介

北海道 道の駅おとふけ



2022年4月15日にグランドオープン
構造材にSGEC認証材を活用
構造材部分プロジェクト認証を取得

39

3 プロジェクト認証のメリット

1. S G E C 材の認知度を上げることが出来る
2. 使用木材が世界最高水準であることの証明ができる
3. 子供たちへの木育が可能
4. 地域産材を活用したS G E Cプロジェクト認証はその地域の物語となる
5. プロジェクトチームは公共性の高い施設の建設に携われる
6. ウッドデザイン賞などの応募が容易
7. 森林環境贈与税の活用が可能
8. S G E C 認証材を取扱うことはS D G s との親和性が高い

4 プロジェクト認証の手順

Step1

Step2

Step3

Step4

プロジェクトの概要決定

- ✓ プロジェクトの内容・範囲を決定（全体 or 部分）
- ✓ 誰が管理主体のプロジェクトマネージャーになるのか？
- ✓ プロジェクトメンバーの決定
- ✓ 原材料カテゴリー（認証材か否か）の確認

41

4 プロジェクト認証の手順

Step1

Step2

Step3

Step4

認証機関への申請と準備

- ✓ 審査する認証機関を決定
- ✓ プロジェクトマニュアルの作成（管理主体が行う）
 - グループの規約
 - 組織図
 - 工程表
 - プロジェクトメンバーの合意書 など

42

4 プロジェクト認証の手順

Step1

Step2

Step3

Step4

審査を受ける

- ✓ 現場の確認
- ✓ 工程の確認
- ✓ インタビュー

43

4 プロジェクト認証の手順

Step1

Step2

Step3

Step4

プロジェクト完成

SGECEPFC日本の広報でPRのサポート



Vol. 57

ニュースレター



44



| SGEC/PEFCジャパン |

質問・問合せ



ニュースレター
配信申込



森林認証材の需要拡大に関するアンケート集計及び結果考察

問1-1) 回答者情報(林業木材産業におけるポジションおよび職種)

林業木材産業におけるご自身のポジション(川上・川中・川下)を選択いただくとともに職種(例 素材生産業者、製材業、建築設計事務所など)を記載願います

川上分野(主に森林整備・素材生産など)	4	14%
川中分野(主に木材加工・木材流通など)	13	46%
川下分野(主に木材利用)	8	29%
その他	3	11%
合計	28	100%

職種回答内容

川上	森林組合 素材生産業者 森林整備	川下	建築パネル生産 家具生産 デベロッパー ゼネコン
川中	木製品(家具、建具など)製造業 木材加工・木材流通 小木工品製造 防腐加工 木材建材商社 製材・集成材・木材加工 二次加工(防腐防蟻処理) 建材製造業 加工及び流通業 木材加工・構造設計 製材、加工、流通 木造作工事 プレカット工場	その他	建築設計事務所 家具製造販売 デベロッパー 設計施工 二重床のメーカー 地方自治体(2件)

【所見】

- ・ 川中と川下でほぼ同じ職種が見受けられる。
- ・ その他に含まれる「地方自治体」も活動の参考になるため、川上中下の分類とは別のカテゴリーとしてもよいのではないか。
- ・ 今回、川中企業の意見を聴取したかったのであれば、上記の回答分布でもよいが、川上・川中・川下すべての状況を調査したかったのであれば偏りがある。
- ・ 川上、川中、川下の分類が重要なのであれば、その基準を明示するべきであろう。
- ・ 送付時点で企画側で分類し、川上、川中、川下別の質問事項を設定することも有効である。

問1-2) 回答者情報 (主な営業エリアについて)

主な営業エリアを選択願います

北海道	2	7%
東北	5	18%
関東	9	32%
中部	3	11%
近畿	0	0%
中国・四国	1	4%
九州	0	0%
その他	8	29%
	28	100%

注) その他で回答のうち7件は全国
残1件は日本全国及び海外

【所見】

- ・ 木材バリューチェーン上のプレーヤーの意見聴取が目的であれば、回答者の活動地域は大きな意味はないが、具体的に大館市が出荷したい先の意向を調査したいのであれば、近隣地域の回答が少ない。
- ・ 木材は輸送コストが大きいこと、全国に杉産地は点在していることから、長期的に認証林が増えて行くと、近隣の顧客からの支持が重要になると想定される。

問2-1) 森林認証の取得状況について教えてください

取得済みの方は認証機関 (SGEC、PEFC、FSC) について記載願います

取得済み (FM認証)	2	7%
取得済み (CoC認証)	8	29%
取得済み (FM認証・CoC認証両方)	3	11%
取得していない	13	46%
わからない	2	7%
合計	28	100%

	FM認証	CoC認証	両方	合計
FSC	0	5	1	6
SGEC/PEFC	2	7	1	10
他	0	0	1	1
合計	2	12	3	17

CoC認証は両認証機関から取得が4社あり、延べ数とした。

他は「物件ごとのプロジェクト認証・他」との回答

【所見】

- ・ 取得率は今回の回答全体では47%、川中企業のみでは69% (13社中9社)。

- ・ 今後も環境保護重視の生産活動が重視されるであろうから、認証取得に向けて動くことは支持されるものと想定する。

問2-2) 問2-1で「取得していない」と回答いただいた方
以下の該当する項目を選択願います

今後取得することを検討している	1	8%
興味はあるが具体の検討はしていない	4	31%
今後も取得するつもりはない	6	46%
その他	2	15%
合計	13	100%

その他の回答内容

- ・ 取得が求められてない業種
- ・ FSC (CoC) SGEC (FM CoC) とともに退会済

【所見】

- ・ 現状保持しておらず、今後も取得予定がない(6社)、取得していたが退会した(1社)で、認証に興味がない企業は25%(28社中7社)にとどまり、全体的な傾向は認証取得と読み取れる。

問3-1) 森林認証材の供給・調達について
以下の該当する項目を選択願います

供給・調達している(したことがある)	19	68%
供給・調達していない(したことがない)	3	11%
森林認証を取得していない	5	18%
分からない	1	4%
合計	28	100%

【所見】

- ・ 7割近くの企業が森林認証材に関わる取引経験あり、認知は広がっている。

問3-2) 問3-1で「供給・調達している(したことがある)」と回答いただいた方
該当する項目を最大3つまで選択願います

注文や問合せを受けた場合のみ供給・調達している	11	50%
常時供給・調達している/在庫している	5	23%
会社として森林認証制度を推奨している	2	9%
非森林認証材と比べ優位性があるので供給・調達している	0	0%
以前は優位性があり供給・調達していたが、優位性がなくなり今は供給・調達していない	1	5%

調達を中止した	0	0%
その他	3	14%
合計	22	100%

その他の回答内容

- ・ 所有林整備に伴い売払いする素材が生じる場合に供給している。
- ・ 産地指定（証明）材＞森林認証材 の状況
- ・ 今後はクリーンウッド法の罰則強化等があるので調達を増やしたいという思いはある。

【所見】

- ・ 森林認証材の取り扱い理由について、現状は需要者次第ということがわかる。
- ・ 非認証材と比較した品質を理由に扱うケースは少ない。

問3-3) 問3-1で「供給・調達していない（したことがない）」と回答いただいた方該当する項目を最大3つまで選択願います

そもそも検討したことがない	0	0%
森林認証材は検討対象ではあるが、注文や問合せを受けたことがない	1	33%
非森林認証材と比べ優位性がない	0	0%
森林認証材製品の情報・流通網がない	1	33%
その他	1	33%
合計	3	100%

その他の回答内容

- ・ 対象認証林が小規模であり単独の事業として成立たない（需要はある）

問4) 森林認証材の産地について

森林認証材の産地として魅力的に思える地域、または定常的に調達する地域はありますか また、それはなぜですか（理由例 ブランド、価格、納期、品質、流通の推奨、懇意な業者の存在、理由不明など）

なお、特定の地域がない場合は選択・記載不要です。

回答された地域	理由
飛騨	飛騨家具メーカーが作る家具が上質で品が良い為、材料の品質も高いのではと感じる。）
岩手県岩泉町	FSC認証広葉樹があるので
マレーシア	型枠合板の認証材利用を人権、森林保護の観点から目標としている。
山梨県	県有林単位で取得しているので、安定的に供給される。
山梨県北杜市	協定を締結している

紀州材	以前使用して品質が良かったから
愛知県・岐阜県	地元ということもあり、定期的な使用がある為。
北海道	FSC認証広葉樹があるので
全国	必要に応じて
西川材	近くで品質が良さそうなイメージだから
静岡川根本町	森林所有者から直に認証原木を購入できる、弊社から距離も近いから
群馬材	出身地で、自宅などにも使っているから

【所見】

- ・ 魅力的に思う（実際は調達していない）のと定常的に調達している先は分けるべきであった。取引がないのに魅力的に思ってしまう理由が大館市の営業の参考になる。
- ・ 本問では当市の競合やベンチマークを知るために有効であるが、当市の産出材に限定した問にすればさらに良い回答が得られるであろう。

問5) 森林認証材の供給・調達において最も重要な点

該当する項目を最大3つまで選択願います

ブランド	9	12%
価格	12	16%
納期	8	11%
供給安定性	10	13%
品質	11	15%
合法性（合法伐採・合法労働など）	12	16%
持続可能性（再生林・炭素固定など）	10	13%
理由不明・調達していない	1	1%
その他	2	3%
	75	100%

その他の回答内容

- ・ お客様からの依頼内容に沿う形となるため重要な点は都度変わります
- ・ 認証された資材（弊社の場合、合板）の調達

【所見】

- ・ どの項目も重視されるという結果になってしまっているため、最優先事項が何か不明である。
- ・ 本問では品質を重視との回答があるが、問3-2の結果と矛盾する。森林認証材の中で調達先を選定する際は品質も重視されると解釈できる。
- ・ 合法性も重視されており、認証保有することはこの点で優位性を持つ。

問6) 森林認証材の注文や問合せについて

該当項目を選択願います。

秋田スギ森林認証材の注文や問合せを受けた、もしくは	1	10%
---------------------------	---	-----

したことがある	1	4%
国産の森林認証材という指名で注文や問い合わせを受けた、もしくはしたことがある	15	54%
注文や問合せを受けていない、もしくはしたことがない	6	21%
注文や問合せを受けた、もしくはしたことがある	4	14%
その他	2	7%
合計	28	100%

その他の回答内容

- ・ 素材売払いに係る契約書類にSGEC/PEFC認証森林から算出された旨を記載している。
- ・ 会社として提案をする機会がある

【所見】

- ・ 残念ながら秋田スギ森林認証材の指名買いはほぼ無い。
- ・ 認証材であるかどうかはまず選定基準となり、その後認証材間での競合があると読み取れる。

問7) 森林認証材のメリットを感じていますか？

認証があると価格面の不利があっても売りやすい	1	4%
認証があると国産材も外国産も関係なく訴求しやすい	9	32%
認証についてユーザーの認知度はあがっている	5	18%
メリットをあまり感じない。考えたことがない	11	39%
その他	2	7%
合計	28	100%

その他の回答内容

- ・ 売払い先が地域森林組合であり、直接メリット・デメリットを感じることはない。
- ・ 森林認証は性能や品質の保証ではないうえ、産地間クレジットトレードに条件でもなく、指定するとコストが高くなる傾向なので補助的条件に留まる

【所見】

- ・ メリットをあまり感じないと11社が回答しているが、4社は認証取得済である。逆に言うと、取得済み企業の69%（13社中9社）はメリットを感じていると読み取れる。

問8-1) 国産の森林認証材の需要【物件について】

注文や問合せが多いものを最大3つまで選択して下さい

公共施設	19	33%
商業施設	8	14%

学校施設	9	16%
保育施設	1	2%
福祉施設	6	10%
一般住宅	6	10%
実績なし	4	7%
その他	5	9%
合計	58	100%

その他の回答内容

- ・ 工場倉庫
- ・ ノベルティー、店舗什器、表彰楯などが多いです
- ・ オフィスビル・分譲マンション
- ・ 直接注文を受けて売払うことはほとんどないが、間接的に市の公共施設や学校施設等に使われることはある。
- ・ 産地指定などの助成金付の物件（の追加条件のひとつ）

【所見】

- ・ 公共工事での認証材指定が多いことが読み取れる。

問 8 - 2) 国産の森林認証材の需要【材料について】

注文や問合せが多いものを最大3つまで選択して下さい

構造材	16	36%
下地材	5	11%
内装材	8	18%
外構材	3	7%
土木用材	1	2%
家具・工芸用材	5	11%
実績なし	4	9%
その他	3	7%
合計	45	100%

その他の回答内容

- ・ 型枠合板
- ・ 直接注文を受けて売払うことはほとんどないが、間接的に市の公共施設や学校施設等に使われることはある。
- ・ 内外装の造作材

問 9) 木材（または森林認証材）調達の意思決定について※木材需要者のみ
木材（または森林認証材）の調達において意思決定に影響を及ぼすのは何ですか？

仕入先からの製品情報（樹種、品等、規格）、セールス活動	13	54%
産地からの製品情報（樹種、品等、規格）	5	21%
合法木材の情報（合法木材証明書）	3	13%
産地からのセールス活動	0	0%
業界誌、新聞、ウェブサイト（具体的に記載願います）	0	0%
その他	3	13%
合計	24	100%

その他の回答内容

- ・ グループ目標として2030年までに型枠合板の認証材使用を宣言している。
- ・ FSC認証であること
- ・ 施主や設計事務所など

【所見】

- ・ 需要家の情報の取り方が受動的であることが読み取れるため、産地からのセールス活動を行えば目立つと想定される。

問10) 木材供給・調達に関する情報収集について

森林認証材を問わず木材供給・調達に関する情報収集で不便を感じることはありますか？

ない	22	79%
ある（具体的に記載願います）	6	21%
合計	28	100%

「ある」と回答された具体的内容

- ・ 自治体ごとに供給可能な樹種や材積、リードタイム、素材生産業者一覧などが分からず手当たり次第電話して交渉しなければならないこと
- ・ 個々に情報収集をする煩雑さ
- ・ 継続して調達することが難しくなっている。
- ・ 情報が少ない
- ・ 木材供給を受ける製材工場など木材生産事業者が持っていると思われるが、認証森林供給者に情報は求めないと入ってこないと思われる。
- ・ ウッドショック等による価格の変動

【所見】

- ・ このような需要家の困りごとが、セールスの突破口となりうる。
- ・ とくに具体内容の1項目目などは自治体の努力で情報提供することで、他自治体との差別化を図ることができるかもしれない。

- ・ 全体的に「情報へのアクセス」が不便の根源の1つと読み取れる

問1 1) 森林認証制度への理解、利用促進について

最終消費者に森林認証制度への理解、森林認証材の利用促進を図るために有効と思われる活動を選択願います（複数可）

森林認証に関連するイベントを開催する	12	23%
産地からの認証材製品を展示する	6	12%
SGEC制度事務局（SGECを管理している事務局）が広報媒体でPRする	12	23%
認証取得している会社が独自に行う	4	8%
製品を販売する会社が顧客にPRする	11	21%
その他	7	13%
合計	52	100%

その他の回答内容

- ・ 建築資材において使用材がどのような経緯を経て調達できたのかがわからないことは人権・生物多様性の面においてマイナスになると思われ、企業の責任において必要であることを認識する活動をしていければと考えている。
- ・ 制度化し、それを遵守する
- ・ 国産製材品の輸出拡大
- ・ 生産、流通の各段階で企業の環境保全、持続可能な生産活動に関するイメージアップが遡及できるPR活動
- ・ 建築事業主や設計者の認識も高めるべきと感じます。消費者は紙の「FSCミックス」等のマークの認識はあるので、木材も同様に認知できればと考えますが、使用段階で
- ・ 全国的な動きへと考えるのであれば、上記のほかにも国レベルでの利用促進啓発の必要では。ただし認証材供給体制が整わないと難しいとも感じる。
- ・ 林野庁等による広報

【所見】

- ・ 最終消費者への啓蒙は重要ではあるが、一企業や一自治体にて取り組むには大き過ぎるテーマである。
- ・ 現実的、短期的には最終消費者よりも流通側へのアピールのほうが効果があると想定される。

問1 2) 当地域（大館市・周辺地域）の森林認証材について

今後、大館市有林や当協議会の会員が所有する森林で森林認証（SGEC）の取得を予定しておりますが、当地域（大館市・周辺地域）の森林認証材に興味はありますか？

興味があり、詳しく話を聞きたい	1	4%
興味があり、情報提供（メール等）をお願いしたい	9	32%
興味はない	3	11%

分からない	9	32%
その他	6	21%
合計	28	100%

その他の回答内容

- ・ 当社事業において、直接的にはお付き合いがなく支援がしにくい現状であるが、取り組みには賛同したい。
- ・ 建築案件の種類や地域によって興味を持つ可能性があります。
- ・ 情報共有しましょう
- ・ FSC認証材に興味がある
- ・ 森林認証の取得地域が増えることは、認証材の需要拡大につなげることができると考える。
- ・ 森林認証材のことを全く知りません。お役に立てずすみません。

【所見】

- ・ 興味ありとの回答3社のうち、1社は認証取得済みの関東エリアの企業、2社は認証非取得の企業
- ・ 積極的に知りたいとしてくれた1社にはすぐにでも連絡をいれるべきである。

問13) 最後に当地域に今後求めたいことや期待したいことなどをお聞かせください

(自由記載内容を原文のまま転記)

- ・ 森林認証の価値は信頼性です。FSCとPEFCを比べると明らかにFSCの方が信頼性が高いです。FSCは認証停止、はく奪は聞いた事がありますが、PEFCはありません。なので私はFSC認証のみ取得していますし、市場からはPEFCの要求はされて事はありません。
- ・ 大館市での取り組みのみならず、秋田県との連携に関する情報、近隣の能代市などとの取り組みの違いなどに関する情報の発信を期待致します。
- ・ 平成22年にFSC認証を取得し、現在は約2万haの認証林を管理しています。FSCにしたのは将来的に海外輸出を視野に入れていた為です。実際は国内で少量ですが認証材として販売していますが、現在までに金銭的なメリットは感じていません。CoCの制度が変わり認証の維持費が上がった為、森林認証も含めて見直しの時期かと思っています。また認証を取得する体系ですが、企業や組織がそれぞれ単独でおこなわず、行政も含め基金を設立しグループで認証を維持できればと考えております。
- ・ 今回ようやくウェビナーに初めて参加させていただくこととなりますが、月1回の情報提供いただける大変貴重な機会と思いますので、これからもさらに会員を増やして継続していただけると幸いです。
- ・ 森林資源を有効活用することは、地球環境を守る上で、また、住環境を改善する上で、とても重要なことですね。弊社は、全国に知り合いの工務店やリフォーム会社が数多くいます。秋田でも工務店向けセミナーを10年ほど前、開催しました。

- ・ 今ままで、認証材はオリンピック関連施設と地元の補助案件以外、要望がありませんでした。認証を受け続けるには、ランニングコストがかかります。認証によって付加価値が付き、認証を受けていないものよりも高額に取引してもらえるような世の中にしてください。
- ・ 持続可能な森林経営を目指した林業地域
- ・ PRや情報提供に力を入れていて、大変感心しております。材が良いのが最大の強みと感じます。
- ・ FSC認証材情報が欲しい。
- ・ 今、テレワークができる人があまりに多すぎると思います。一次、二次産業あつての三次産業だということを若い世代に伝えて欲しいです。
- ・ 森林認証材（合法性）のJAS格付（性能表示）製品は、産地を問わずイコールトレード出来れば市場は活性化する。現時点では、例えば「秋田県産材のJAS機械等級製品」であっても、多摩産材指定の物件には使ってもらえない方法がない。長年の啓蒙により、国内の消費意識が地産地消で縛られているので、原木産地や供給者の森林認証という努力では予算および消費力がある大都市部の需要に繋がりにくい傾向がある。公共物件は全国でその傾向が顕著であり、民間物件以上に高コストが許される建築物の、一般流通材を排除する障壁の一つとして産地指定、森林認証などが利用されている面が日本全国である。もし、森林認証の価値化と普及を進めるのであれば、公共物件において森林認証のみを条件とした部材指定を試みてほしい。※あくまで個人の意見です。所属団体の公式見解ではありません。
- ・ 広報としての戦略はFSCのほうが優れていると思います、プロジェクト認証を取得したいという施主からの要望も何度か耳にしています。SGEC=PEFCを取得されるなら、FSCも同時に取得することを推奨します。

【所見】

- ・ 比較論でFSCの優位の声がある。
- ・ ウェビナーや当協議会など、当市の取り組みや発信に対しての期待や賞賛の声があり、この点は継続できれば当市材の認知向上及びブランド価値につながる可能性がある。

(以上)



グリーン成長構想

大館北秋田地域林業成長産業化協議会

〒017-8555 秋田県大館市字中城20番地
(大館市産業部林政課 内)

TEL: 0186-43-7076 / FAX: 0186-49-3133

MAIL : mokuzai@city.odate.lg.jp

HP : <https://rinseikyo.jp>



HPはコチラ



令和5 (2023) 年4月発行